

平成30年度
(2018年度)

履修の手引

熊本県立大学

環境共生学部

平成30年度「履修の手引」は在籍期間を通じて使用しますので、大切に保管してください。

● 環境共生学部理念

環境共生に係わる諸問題を総合的に捉え、人間活動を支える場として豊かな自然を保全しつつ、持続的に利用し、地域住民の快適で健康な生活を確保する方策、即ち、自然環境と人間活動との共生の方策を追求し、地域の発展と人間福祉の向上をめざす。

● 人材養成の目的

環境共生学部では、人と自然とが共生していく際の諸問題を総合的に捉え、その方策を追求することを通して、地域の発展と人間福祉の向上をめざし、環境共生型社会の創造に貢献する人材を養成する。

環境資源学科では、環境問題を科学的に解明し、持続可能な対策を提案していくために必要な自然科学の基礎的知識と理解力を育み、生態系の仕組みや人間活動が環境に及ぼす影響を調査、解析、評価する能力を育成し、持続的循環型社会の創造に貢献する人材を養成する。

居住環境学科では、環境への負荷軽減、人間の健康・福祉等の視点を重視する居住環境に関する実践的な教育・研究を通じ、共生型居住環境の創造に必要なデザイン、計画、調整、構築に関する多様な能力を育成し、自然と共生した人と地球にやさしい居住環境を創造できる人材を養成する。

食健康科学科では、自然環境へやさしく、地域の環境特性を反映した「食と健康」に関する教育・研究を通じ、医療・保健・福祉・食育活動の分野で活躍する管理栄養士や、食・健康・環境分野の研究および教育に携わり、地域社会の健康増進や運動指導に係わる人材を養成する。

● その他の教育研究上の目的

環境共生学部は、環境共生に係わる諸問題を総合的に捉え、人間活動を支える場としての豊かな自然を保全しつつ、持続的に利用し、地域住民の快適で健康な生活を確保する方策を追求し、地域の発展と人間福祉の向上をめざすことを理念とし、自然環境と人間活動との共生のあり方について教育・研究することを目的とする。

● 学位授与方針（ディプロマポリシー）

【学部】

1 学生が身につける資質・能力の目標

- <知識・理解>・国際的な視野と自然科学・健康科学に係る（高度な）知識をもとに、人間活動と自然環境との共生に関わる地域あるいは地球規模の諸問題を総合的に捉え理解し得る能力をもつ。
- <思考・判断>・環境共生型社会の創造に向けて、地域の発展と地域住民の快適で健康な生活や居住環境の向上を思考し、自ら行動するのに必要な判断能力・実践力をもつ。
- <関心・意欲>・人間活動と自然環境との共生に関わる地域あるいは地球規模の諸問題に興味・関心をもち、その問題を解決する意欲と能力を修得している。
- <態度>・環境共生の観点から地域あるいは地球規模の多様な諸問題を社会と協調しつつ主体的に活動し解決しようとする態度を有する。
- <技能・表現>・自然科学・健康科学に係る多様な事象を総合的に捉え、快適で健康な生活や居住環境の向上を目指し活動する技術および表現力を修得している。

2 学位の授与（学士課程）

4年以上在学し、1に掲げる資質・能力を身につけ、環境共生学部の各学科において定める所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

【環境資源学科】

1 学生が身につける資質・能力の目標

- <知識・理解>・自然科学に関する基礎的な知識をもとにして、環境共生に関わる諸問題を考察する能力を修得している。
 - ・生態系の仕組みを正しく理解し、人間活動が環境資源に及ぼす影響を調査、解析、評価する能力を修得している。
- <思考・判断>・私たちが取り巻く様々な環境問題の中から、自ら課題を探求し、解決するために必要な総合的能力を修得している。
- <関心・意欲>・環境に対する興味・関心を有し、国際的な視野をもって、地域あるいは地球規模での環境問題の解決に貢献しようとする意欲を有している。
- <態度>・複雑化、多様化する環境問題に柔軟に対応できる幅広い視野と能力を修得している。
 - ・環境保全に関わるボランティア活動などに積極的に参画し、他者と協調しながら主体的に活動できる能力を修得している。
- <技能・表現>・科学的、専門的な知識に基づいて、自然環境の素晴らしさを一般の人々に伝えるインタープリターとしての能力を修得している。

2 学位の授与（学士課程）

4年以上在学し、1に掲げる資質・能力を身につけ、環境資源学科において定める所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

【居住環境学科】

1 学生が身につける資質・能力の目標

- <知識・理解>・建築・都市・地域の視点から自然と人が共生する真の姿を探求し、高度な専門性と倫理観を基に新しい居住環境を創造する能力を有する。
- <思考・判断>・建築・都市・地域を取り巻く様々な課題を抽出し、論理的、分析的に思考し、判断する能力を有する。
- <関心・意欲>・世界的視野に立って現代の諸相を捉え、地域の立場から複雑な問題群を解決しようとする意欲を有する。
- <態度>・地域社会の変化に柔軟に対応でき、専門知識を活かし積極的、主体的に活動できる能力を有する。
- <技能・表現>・専門分野の講義や実習で得た知識を統合して構想する能力と、その構想を具体化するための技術力と実践力を有する。

2 学位の授与（学士課程）

4年以上在学し、1に掲げる資質・能力を身につけ、居住環境学科において定める所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

【食健康科学科】

1 学生が身につける資質・能力の目標

- <知識・理解>・自然科学に関する基礎的な知識を基にして、食料・健康・環境に関する科学を総合的に理解し、専門分野に対する知識と技術を修得している。
- <思考・判断>・専門分野の講義や実習で得た知識を統合し、食料・健康・環境に関わる諸問題を国際的な視野をもって捉え、地域の立場から解決するのに必要な思考・判断能力を有する。
- <関心・意欲>・環境共生にかかわる諸問題に対する興味・関心を有し、食料・健康・環境に関わる複雑な問題を解決しようとする意欲を有する。
- <態度>・食料・健康・環境に関する複雑な問題に対して柔軟に対応でき、積極的、主体的に活動して解決しようとする態度を有する。
- <技能・表現>・「人と社会と自然との共生」の視点から、自然環境にやさしく、地域の環境特性を反映した「食と健康」のあり方を調査、解析、評価、実践するための技術力および表現力を有する。

2 学位の授与（学士課程）

4年以上在学し、1に掲げる資質・能力を身につけ、食健康科学科で定める所定の単位を修得した者に学位を授与する。

● 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

【学部】

1 教育課程の編成

- ・自然と人間が共生していく際の諸問題を総合的に捉え、その方策を追求し、地域の発展と人間福祉の向上を目指すことを理念とし、環境資源学科、居住環境学科および食健康科学科の3学科を設ける。
- ・全学共通教育に加え専門科目として、学部共通教育および各学科の専門領域の教育を通して、環境共生型社会の創造に貢献する人材の育成を目指し、環境共生にかかわる諸問題と環境共生の理念を理解するため、フィールドワークを含む「導入科目」、自然科学の知識と理解力を養成する「基礎科目」ならびに各学科の専門的な能力を養成する「展開科目」を講義、演習、実習、実験等の順次性に配慮し、体系的に配置する。

2 教育方法

- ・教育目標の達成に向け、各科目において、適切な形態を採って授業を展開する。また、能動的学修を適切に組み込んで行う。
- ・授業時間外の学修時間を確保し、単位の実質化を図る。
- ・本学の理念の一つである「地域性の重視」の教育面での取組として、環境共生の立場から地域を素材とした教育を行う。

3 学修成果の評価

学位授与方針（ディプロマポリシー）に掲げる資質・能力の修得状況を、学部において把握し、それに基づいて、学部の教育課程における学修成果を評価する。

- ・授業の単位認定は、「シラバス」に定める成績評価基準により担当教員が行う。
- ・授業の学修成果は、「シラバス」に定める成績評価基準と学生自身の自己評価に基づいて評価する。
- ・学部としての学修成果は、個々の授業における学修成果の集計と学生の学修状況に基づき、学部独自の評価方法を加味し、総合的に評価する。
- ・専門教育の到達は、各学科の学位授与方針（ディプロマポリシー）に基づく評価表等を用いた卒業論文評価により確認する。

【環境資源学科】

1 教育課程の編成

- ・環境共生に関わる諸問題を科学的に解明し対処するための基礎的な自然科学の知識と理解力を養成する。併せて、環境の成り立ちや生態系の仕組みを理解し、人間活動が環境資源に及ぼす影響を調査、解析、評価する能力を養成するために「学科専門科目」を置き、環境資源の保全と適正利用による、持続可能な生物資源の生産技術ならびに社会発展のための方策について教育する。
- ・「基礎科目」では、基礎的な自然科学の知識と理解力を幅広く養成するために、理科全般（物理学・化学・生物学・地学）、数学、統計学および情報処理に関する科目を設置する。
- ・「展開科目」では、生態、生物資源、物質環境、環境計画の4分野に関する調査・分析能力を養成するために、各分野の講義科目および実験・演習科目に加えて、環境評価をフィールドにおいて実践的に体験する4つの環境アセスメント実習（沿岸域環境アセスメント実習、森林環境アセスメント実習、水産環境アセスメント実習、植物生産環境アセスメント実習）を設置する。
- ・生態関係科目では、海洋および森林の生態系の構造と機能、保全と利用のための方策を学ぶ科目を、生物資源関係科目では、海洋および陸上で生産される生物資源の特性と機能、栽培・増殖法、生産環境、生産物の利用法を学ぶ科目を、物質環境関係科目では、環境における物質循環に関する化学的、物理的な知識と環境への影響評価手法を学ぶ科目を、環境計画関係科目では、環境資源の保全と恒久的利用、持続可能な社会発展に必要な計画論、法規、政策、制度について学ぶ科目を、それぞれ設置する。
- ・国境を越え、広域化、国際化する環境にかかわる諸問題に対応する能力を養成するために、教養科目の英語科目に加えて、展開科目に英語科目（Science English）を設置する。

2 教育方法

- ・教育目標の達成に向け、各科目において、適切な形態を採って授業を展開する。また、能動的学修を適切に組み込んで行う。
- ・授業時間外の学修時間を確保し、単位の実質化を図る。
- ・本学の理念の一つである「地域性の重視」の教育面での取組として、環境共生学および資源循環科学の立場から地域を素材とした教育を行う。

3 学修成果の評価

学位授与方針（ディプロマポリシー）に掲げる資質・能力の修得状況を、学科において把握し、それに基づいて、学科の各教育課程における学修成果を評価する。

- ・授業の単位認定は、「シラバス」に定める成績評価基準により担当教員が行う。
- ・授業の学修成果は、「シラバス」に定める成績評価基準と学生自身の自己評価に基づいて評価する。
- ・学科としての学修成果は、個々の授業における学修成果の集計と学生の学修状況に基づき、学科、独自の評価方法を加味し、総合的に評価する。
- ・専門教育の到達は、学科の学位授与方針（ディプロマポリシー）に基づく評価表等を用いた卒業論文評価により確認する。

【居住環境学科】

1 教育課程の編成

本学科の「環境共生」の理念のもと、環境への負荷軽減、人間の健康・福祉等を重視し、住居から建築・都市・地域に至る居住環境の全体を見据え、実体験に基づいた科学的認識能力と、居住環境をまもり育てる専門的な技術を持った人材を育成する。そこで、以下のようなカリキュラムを編成する。

- (1) 本学科は居住空間計画、都市・地域計画、環境調整・設備、構造・材料の4分野から構成され、各分野において基礎から応用まで段階的に修得できるように科目を設置する。基礎的な科目はすべて必修科目に指定し、初年度から基礎的な演習を取り入れて主体的な学修を促す。また、実習・演習の科目を多く設け、講義で得た知識を実験実習で体感し、自ら主体的に取り組み、より深く認識できる構成とする。
- (2) 居住空間計画および都市・地域計画分野では、地域の課題を浮き彫りにする内容とともに、国際的な視野で課題を考えることができる力を養うべく、多くの外国事例などをとりあげて幅広く講義する科目群を設置する。
- (3) 環境調整・設備および構造・材料分野では、自然環境との共生と環境負荷の軽減を目指すとともに、人と地球にやさしい建材である木質材料を重視した関連科目群を設置する。
- (4) 卒業時に、二級建築士の受験資格が得られるカリキュラム構成とする。また、所定の単位を修得し、2年間の実務経験を経れば、一級建築士の受験資格が得られる。更に様々な進路も選択できるようなカリキュラム構成とする。

2 教育方法

・教育目標の達成に向け、各科目において、適切な形態を採って授業を展開するとともに、能動的学修を適切に組み込んで行う。

・学生の学修時間等の実態把握や授業計画の明確化、必要な授業時間の確保により、単位制度の実質化を図る。

3 学修成果の評価

学位授与方針（ディプロマポリシー）に掲げる資質・能力の修得状況を、学科において把握し、それに基づいて、学科の各教育課程における学修成果を評価する。

- ・授業の単位認定は、「シラバス」に定める成績評価基準により担当教員が行う。
- ・授業の学修成果は、「シラバス」に定める成績評価基準と学生自身の自己評価に基づいて評価する。
- ・学科としての学修成果は、個々の授業における学修成果の集計と学生の学修状況に基づき、学科独自の評価方法を加味し、総合的に評価する。
- ・専門教育の到達は、学科の学位授与方針（ディプロマポリシー）に基づく評価表等を用いた卒業論文評価により確認する。

【食健康科学科】

1 教育課程の編成

・自然科学に関する基礎的知識を基にして、専門分野における知識と技術の修得が可能となる科目を、段階的に、総合的に学修できるように配置する。特に、大学教育で得られた知識をもとに自ら考え、発展させる能力や、レポート作成、プレゼンテーション能力などを養うことを目指し、実験・実習・演習科目を重点的に配置する。

・食・健康・環境に関わる様々な問題を国際的な視野をもち、地域の立場から、自ら発見し解決する思考力・判断能力を修得するための科目を配置する。

・自然環境や地域の環境特性を反映した地域住民の健康づくり、疾病の予防・治療、食品開発などに寄与できる技術や態度を修得できるように、食品の機能、人体の構造と機能、栄養素の体内での変化、食生活と生活習慣病予防、疾病と栄養、バイオテクノロジーと食品開発、食品の安全性と健康、身体活動と健康管理、食糧生産などに関連する科目を配置する。

・所定の単位を修得すると、以下の免許や受験資格が得られるように科目を配置する。

- (1) 管理栄養士免許受験資格
- (2) 栄養士免許
- (3) 食品衛生監視員・管理者（任用資格）
- (4) 中学校・高等学校教諭一種免許状（家庭科・理科）
- (5) 栄養教諭一種免許状

2 教育方法

・教育目標の達成に向け、各科目において、適切な形態を採って授業を展開する。また、能動的学修を適切に組み込んで行う。

・授業時間外の学修時間を確保し、単位の実質化を図る。

・本学の理念の一つである「地域性の重視」の教育面での取組として、環境共生及び食健康科学の立場から地域を素材とした教育を行う。

3 学修成果の評価

学位授与方針（ディプロマポリシー）に掲げる資質・能力の修得状況を、学科において把握し、それに基づいて、学科の各教育課程における学修成果を評価する。

- ・授業の単位認定は、「シラバス」に定める成績評価基準により担当教員が行う。
- ・授業の学修成果は、「シラバス」に定める成績評価基準と学生自身の自己評価に基づいて評価する。
- ・学科としての学修成果は、個々の授業における学修成果の集計と学生の学修状況に基づき、学科独自の評価方法を加味し、総合的に評価する。
- ・専門教育の到達は、学科の学位授与方針（ディプロマポリシー）に基づく評価表等を用いた卒業論文評価により確認する。

目 次

環境共生学部

I	平成30年度（2018年度）授業暦	6
II	履修の概要（全学年共通）	
1	授業科目区分	11
2	単位について	11
3	学期区分及び授業時間	12
4	試験について	12
5	履修登録手続きについて	13
6	GPA制度について	16
III	履修について	
1	共通科目群について	19
2	専門科目群について	25
3	環境資源学科の教育課程紹介	26
4	居住環境学科の教育課程紹介	28
5	食健康科学学科の教育課程紹介	30
6	進級の要件	32
7	卒業論文履修要件	32
8	卒業の要件	32
9	他学部開講科目の履修について	32
10	外国人留学生の特別科目に関する履修の特例について	32
11	学科別授業一覧	35
12	各種免許の取得について	
12-1	教育職員免許状の取得について	46
12-2	一級建築士・二級建築士	53
12-3	一級建築施工管理技士・二級建築施工管理技士	54
12-4	栄養士免許	55
12-5	管理栄養士免許	56
12-6	食品衛生監視員及び食品衛生管理者	58
IV	履修モデル	63

大学関係の規程等について

掲示を見る習慣をつけましょう

学生の皆さんへの連絡は、原則として掲示により行います。来学時には、必ず学内の掲示板（講義棟1号館学生ロビー、本部棟ホール、大ホール前学生ロビー）及び情報表示機（大型ディスプレイ）を確認してください。なお、主要な掲示は大学ホームページにも掲載しますが、個人情報保護の観点から掲載できない内容もありますので、学内掲示を必ず見るようにしてください。また、環境共生学部西棟1階及び南棟1階の掲示板には環境共生学部の学生を対象としたお知らせが掲示してありますので、こちらも見るようにしてください。

I 平成30年度（2018年度）授業暦

熊本県立大学（前学期）

	日	月	火	水	木	金	土	備考
2018								
4月	1	2	3	4	5	6	7	4/4 学部在学生オリエンテーション 4/5-6 学部新入生オリエンテーション 4/7 入学式 4/7 大学院新入生オリエンテーション 4/9 前学期授業開始 4/9-18 履修登録期間
	8	9 ①	10 ①	11 ①	12 ①	13 ①	14	
	15	16 ②	17 ②	18 ②	19 ②	20 ②	21	
	22	23 ③	24 ③	25 ③	26 ③	27 ③	28	
5月	29 祝	30 祝	1 ④	2	3 祝	4 祝	5 祝	5/2 開学記念日
	6	7 ④	8 ⑤	9 ④	10 ④	11 ④	12	5/6 体育祭
	13	14 ⑤	15 ⑥	16 ⑤	17 ⑤	18 ⑤	19	
	20	21 ⑥	22 ⑦	23 ⑥	24 ⑥	25 ⑥	26 補	5/26 補講日
6月	27	28 ⑦	29 ⑧	30 ⑦	31 ⑦	1 ⑦	2	
	3	4 ⑧	5 ⑨	6 ⑧	7 ⑧	8 ⑧	9	
	10	11 ⑨	12 ⑩	13 ⑨	14 ⑨	15 ⑨	16	
	17	18 ⑩	19 ⑪	20 ⑩	21 ⑩	22 ⑩	23	
	24	25 ⑪	26 ⑫	27 ⑪	28 ⑪	29 ⑪	30 補	6/30 補講日
7月	1	2 ⑫	3 ⑬	4 ⑫	5 ⑫	6 ⑫	7	7/7 アドミニ研究科秋季入学入試（予定）
	8	9 ⑬	10 ⑭	11 ⑬	12 ⑬	13 ⑬	14	
	15	16 祝	17 ⑮	18 ⑭	19 ⑭	20 ⑭	21	7/15,22 オープンキャンパス（予定）
	22	23 ⑭	24 補	25 ⑮	26 ⑮	27 ⑮	28 補	7/24,28 補講日
8月	29	30 ⑮	31 試	1 試	2 試	3 試	4	7/29 オープンキャンパス予備日 7/31-8/8 前学期試験日 8/9-9/27 夏季休業
	5	6 試	7 試	8 試	9	10	11 祝	
	12	13	14	15	16	17	18	8/13 サマー・ECO・デー
	19	20	21	22	23	24	25	8/19 電気設備点検に伴う停電 8/25 文学研究科秋季入学入試（予定） 8/25 環境研究科秋季入学入試（予定） 8/25 環境研究科前期課程入試（予定）
9月	26	27	28	29	30	31	1	
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17 祝	18	19	20	21	22	9/22-23 総管自己推薦型入試（予定）
	23 祝	24 祝	25	26	27	28	29	9/25 秋季卒業式（予定） 大学院博士後期課程秋季入学式（予定） 前学期成績発表（予定） 9/29-30 文・アドミニ研究科入試（予定）
	30							

○各授業時間 1時限 8:40~10:10 2時限 10:20~11:50 3時限 12:50~14:20
4時限 14:30~16:00 5時限 16:10~17:40 6時限 18:00~19:30

- ・ 4/29 昭和の日
- ・ 4/30 振替休日
- ・ 5/3 憲法記念日
- ・ 5/4 みどりの日
- ・ 5/5 こどもの日
- ・ 7/16 海の日
- ・ 8/11 山の日
- ・ 9/17 敬老の日
- ・ 9/23 秋分の日
- ・ 9/24 振替休日

熊本県立大学 (後学期)

	日	月	火	水	木	金	土	備考
2018								
9月	23 祝	24 祝	25	26	27	28 ①	29	9/28 後学期授業開始
10月	31	1 ①	2 ①	3 ①	4 ①	5 ②	6	9/28-10/5 履修登録変更期間 10/6-7 環境自己推薦型入試 (予定)
	7	祝 8 ②	9 ②	10 ②	11 ②	12 ③	13	10/8 月曜日第②回目授業実施
	14	15 ③	16 ③	17 ③	18 ③	19 ④	20	
	21	22 ④	23 ④	24 ④	25 ④	26 ⑤	27	
11月	28	29 ⑤	31 ⑤	31 ⑤	1 ⑤	2 ⑥	3 祝	
	4	5 ⑥	6 ⑥	7 ⑥	8 ⑥	9 ⑦	10	11/10 大学入学共通テストプレテスト
	11	12 ⑦	13 ⑦	14 ⑦	15 ⑦	16	17	11/16 休講 (白亜祭準備) 11/17-18 白亜祭
	18	19 ⑧	20 ⑧	21 ⑧	22 ⑧	祝 23 ⑧	24 補	11/23 金曜日第⑧回目授業実施 11/24 補講日
12月	25	26 ⑨	27 ⑨	28 ⑨	29 ⑨	30 ⑨	1	
	2	3 ⑩	4 ⑩	5 ⑩	6 ⑩	7 ⑩	8	12/2 特別選抜 (予定)
	9	10 ⑪	11 ⑪	12 ⑪	13 ⑪	14 ⑪	15 補	12/15 補講日
	16	17 ⑫	18 ⑫	19 ⑫	20 ⑫	21 ⑫	22	
	23 祝	祝 24 ⑬	25	26	27	28	29	12/24 月曜日第⑬回目授業実施 12/25-1/9 冬季休業
2019								
1月	30	31	1 祝	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10 ⑭	11 ⑭	12	1/10 授業再開
	13	14 祝	15 ⑮	16 ⑮	17 ⑯	18	19	1/18 センター試験準備 (立入禁止) 1/19-20 センター試験 (立入禁止)
	20	21 ⑰	22 ⑰	23 ⑰	24 ⑱	25 ⑱	26	1/26-27 センター試験予備日
2月	27	28 ⑲	29 ⑲	30 ⑲	31 補	1 ⑲	2 補	1/31, 2/2 補講日 2/9-10 全研究科入試 (予定) 2/9 私費外国人留学生入試 (予定) 2/4-13 後学期試験日
	3	4 試	5 試	6 試	7 試	8 試	9	2/11 環境研究科博士後期入試 (予定)
	10	11 祝	12 試	13 試	14	15	16	2/22-24 入学試験・前期準備 (立入禁止)
	17	18	19	20	21	22	23	
3月	24	25	26	27	28	1	2	2/25 入学試験・前期 (立入禁止)
	3	4	5	6	7	8	9	3/10-11 入学試験・後期準備 (立入禁止) 3/12 入学試験・後期 (立入禁止)
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21 祝	22	23	3/21 卒業式
	24	25	26	27	28	29	30	3/27 後学期成績発表 (予定)
	31							

○各授業時間 1時限 8:40~10:10 2時限 10:20~11:50 3時限 12:50~14:20
4時限 14:30~16:00 5時限 16:10~17:40 6時限 18:00~19:30

- ・10/8 体育の日
- ・11/3 文化の日
- ・11/23 勤労感謝の日
- ・12/23 天皇誕生日
- ・12/24 振替休日
- ・1/1 元日
- ・1/14 成人の日
- ・2/11 建国記念の日
- ・3/21 春分の日

Ⅱ 履修の概要（全学年共通）

II 履修の概要（全学年共通）

1 授業科目区分

本学では、次のとおり授業科目を区分し、教育課程を編成しています。

科目群ごとの区分は次のとおりですが、学部、学科によって内容、履修方法等が異なるので注意してください。

区分	分類	分野
共通科目群	基盤科目	外国語（英語、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国語）、健康スポーツ科学、情報処理、キャリアデザイン、地域理解とリーダーシップ
	教養科目	人間と文化、自然と環境、社会と世界
専門科目群		
教職関連科目群		

2 単位について

単位とは、学修の量についての基準を示すものであり、授業と図書館、自宅などにおける授業時間以外の合計45時間の学修をもって1単位としており、授業科目ごとに単位数が定まっています。授業の履修によりそれらを積み重ね、一定数の単位の修得をもって卒業の要件としています（卒業要件については当該年次ごとに掲載）。

<1単位の修得に必要な学修時間>

授業の形態	授 業	授業以外の時間	合 計
講 義	15～30	30～15	45（時間）
演 習	15～30	30～15	45（時間）
実験・実習	30～45	15～0	45（時間）

通常、毎週行う講義・演習では、時間割の1コマ（90分）を2時間とみなしており、前学期・後学期（各15週）の1コマ授業であれば1～2単位（授業科目によって異なる。）修得できるようになっています。

なお、具体的には、授業科目ごとに修得できる単位数が設定されていますので、学科ごとの授業一覧を参照してください。

3 学期区分及び授業時間

4月から9月までが前学期、10月から翌年3月までが後学期であり、科目履修の1つの区切り目となっています。授業時間は下記のとおりとなっています。

午 前		午 後	
1時限目	8：40～10：10	3時限目	12：50～14：20
2時限目	10：20～11：50	4時限目	14：30～16：00
		5時限目	16：10～17：40
		6時限目	18：00～19：30

なお、授業科目によって、夏季休業中などに日時を設定し、集中講義の形式で授業を行うこともあります。

4 試験について

(1) 試験の方法

通常は定期試験として前学期末、後学期末の2回行われますが、集中講義などの場合、臨時に行われることもあります。日程は掲示により示されます。また、レポート提出などの方法により行われることもあります。この他に、病気、怪我、就職試験の受験、忌引、不慮の災害その他やむを得ない事情により試験を受験できなかった場合、追試験を行うことがあります。追試験を希望する学生は、当該授業科目の試験終了後7日以内に科目担当者の許可を得て「追試験受験許可願」を教務入試課に提出してください。

また、受験の際は、必ず学生証を持参し、机上に掲示しておかなければなりません。

学生は受験にあたっては、あらかじめ「熊本県立大学試験に関する規程」及び「定期試験の受験心得」を熟読しておいてください。

当該授業科目の開設される学期中に除籍され、停学に処され、退学し、又は休学した者に対しては、成績の認定は行われません。

(2) 成績の評価

次の5段階に評価されます。

秀	100点 ～ 90点	合格
優	89点 ～ 80点	
良	79点 ～ 70点	
可	69点 ～ 60点	
不可	59点以下	不合格

追試験の成績は得点の9割以下とし、再試験（試験に不合格だった者が再度受ける試験）の成績は、最高成績を合格最低成績60点とします。

秀、優、良又は可の評価を受けた者は、その科目所定の単位が認定されます。不合格となった科目は、必要に応じ翌年度以降にあらためて履修することになります。

既に単位を修得した科目について、改めて履修手続きを経たうえで、再度履修することができます。

学業成績は、情報処理実習室のパソコンにより教務システムで確認してください。確認ができるようになる期日については、学内掲示により周知します。

5 履修登録手続きについて

基本的注意事項

- (1) 履修登録は、単位を修得するために必要な手続きであり、これを怠ったり、誤ったりすると単位が修得できないことになるので慎重に行ってください。履修登録をしないで授業を受け、試験を受けても単位は修得できません。
- (2) 次の授業科目は履修できないので注意してください。(熊本県立大学履修規程)
 - ① 履修登録をしていない授業科目
 - ② 上学年次に開設されている授業科目
 - ③ 授業時間が重複する授業科目
 - ④ 通年の授業科目については、後半の学期の授業を先に受講しても単位は修得できません。
- (3) 履修登録期間終了後の登録はいっさい認められません。分からないことがあれば、必ず履修登録期間内に所属する研究室の教員、もしくは所属する学科の教務担当教員、学年担任、チューター等へ尋ねてください。
- (4) 他の学部、学科の授業科目を履修したい場合は、「Ⅲの9 他学部開講科目の履修について」を参照してください。
- (5) 当該授業科目が開講される学期中に休学した場合は、その授業科目の単位は修得できません。
- (6) 実験、実習、演習、卒業論文、教育実習についても、履修登録が必要です。
- (7) 登録内容の確認を怠ったり、期限を守らなかった場合には、どのような履修上の不利益が生じても本人がその責任を負わなければなりません。
- (8) 手続きに変更が生じた場合、その時点で掲示を行います。そのため、履修登録期間中は毎日掲示を見てください。

履修登録

- (1) 本書、シラバス及び前年度成績などを参考に、授業時間割と照合して1年間に履修する授業科目を決定し、その授業科目を後学期分を含めて、情報処理実習室のパソコンを使って教務システムにより履修登録してください。
- (2) 履修登録期間中に登録入力を完了してください。登録の完了前に、履修計画表の次の事項を確認してください。
 - ① 必修科目、集中講義など、履修科目の記入もれ
 - ② 卒業論文や演習、教育実習の記入の忘れ
 - ③ 時間割番号の誤り
- (3) 履修登録期間は授業開始から10日間ですので、期限を厳守してください。
- (4) 登録前に履修の手引(本書)、シラバスをよく読んでください。
- (5) 履修登録期間以外の追加・変更登録は認められませんので慎重に登録してください。
- (6) 履修登録について掲示しますので、履修登録期間中は毎日掲示を見てください。
- (7) 履修登録者が教室の収容定員を超えた授業科目については、履修者数の制限を行う場合があります。制限方法については、授業の中で説明しますので必ず初回授業に出席してください。
- (8) その他：「Q&A」(次頁)を参照してください。

履修登録についてのQ&A

- Q 1 : どの科目を履修すべきか知りたいのですが。卒業要件について聞きたいのですが。
- A 1 : 所属する研究室の教員、もしくは所属する学科の教務担当教員、学年担任、チューター等へお尋ねください。
- Q 2 : 履修登録期間に登録するのを忘れてしまいました。期間経過後に受け付けてもらえますか。
- A 2 : 追加・変更も含め受け付けません。「5 履修登録手続きについて」の、基本的注意事項の(3)及び(7)を参照してください。履修登録しなかった科目の単位は修得することができません。
- Q 3 : 履修登録すべき授業科目やクラスなどが間違っていたことに履修登録後に気付いたのですが変更できますか。
- A 3 : 履修登録期間中であれば変更できます。
- Q 4 : 同じ曜日・時限に開講されている、複数の科目を受けたいのですが。
- A 4 : 「5 履修登録手続きについて」の、基本的注意事項の(2)を参照してください。ただし、ともに隔週開講で1週おきに授業が行われる科目同士は履修が可能です。
- Q 5 : 語学の再履修クラスと他の授業科目が同じ曜日・時限に開講されているのですが。
- A 5 : 必修科目と重複している等、やむを得ない場合は学部の語学担当教員に相談してください。
- Q 6 : 集中講義の履修登録をしたいのですが、開講時期が未定のものはいつ登録すればよいのですか。
- A 6 : 集中講義も通常の履修登録期間に登録してください。
ただし、集中講義の日程を掲示した日から10日間及び集中講義の開講初日（初日が休業日の場合はその直前の平日）には、追加履修登録が可能です。詳細については掲示を確認してください。
なお、集中講義の日程が一部でも重複した場合は、一方しか受講できません。
- Q 7 : 科目を登録しましたが、授業一覧に載っているものと違う科目名が登録されたのですが。
- A 7 : 授業一覧の備考欄に「～と読替」と書いてある科目の場合、1年生が受講できる科目名が表示されますが、単位は授業一覧に記載された科目名に対して認定されます。
- Q 8 : 教務システムでエラーが出るのですが。
- A 8 : 主なエラーと、対処法は以下のとおりです。その他に新たなエラーが発生した場合は、対処方法について掲示を行うか教務システムのトップメニューに表示させるので確認してください。
- ・ユーザIDまたはパスワードが違います
 - ユーザIDにg+（7桁の数字）を入力してください。
 - パスワードが間違っています。
 - ・セッションがタイムアウトになりました
 - ブラウザのウインドウを閉じ、再度ログインしてください。
- Q 9 : 教務システムで分からないところがあるのですが。
- A 9 : ログイン画面以降についての問い合わせは教務入試課で受け付けます。中央コンピュータ室では回答できないので注意してください。また、エラーメッセージが表示された場合はメッセージの内容を正確に書き留めておいてください。正確なエラーメッセージが分からない場合は、質問に回答できない場合があります。

履修登録手続きフローチャート

授業科目決定	各自、シラバス、時間割、前年度成績（成績通知表）などを参考に1年間に履修する授業科目を決定する。
---------------	--



履修登録 前学期授業開始日から10日間	各自、履修する授業科目（後学期開講科目も含む）を、情報処理実習室のパソコンを利用し、教務システムにより登録する。登録の内容は、各自履修登録画面前期で確認し、必ず各画面を印刷して保管する。 2年次生は、自己判定で進級が可能かどうかの判定をする。 3年次生は、自己判定で卒論履修が可能かどうかの判定をする。 4年次生は、自己判定で卒業が可能かどうかの判定をする。
-------------------------------	--



前学期（通年）の履修科目確定

後学期履修変更 後学期授業開始日から10日間	各自、履修科目（後学期開講科目のみ対象）の変更内容を、情報処理実習室のパソコンを利用し、教務システムにより登録する。登録の内容は、各自履修登録画面後期で確認し、必ず各画面を印刷して保管する。 2年次生は、自己判定で進級が可能かどうかの判定をする。 3年次生は、自己判定で卒論履修が可能かどうかの判定をする。 4年次生は、自己判定で卒業が可能かどうかの判定をする。
----------------------------------	--



後学期の履修科目確定

6 GPA制度について

GPA (Grade Point Average) 制度は、アメリカの大学で広く採用され、最近では日本でも多くの大学で導入されている成績評価システムです。本学でも、GPA制度が適用されます。(熊本県立大学履修規程第10条)

(1) 本学のGPA算定方法

本学では、各科目毎の「秀、優、良、可、不可」の5段階の成績評価とは別に、授業科目毎の成績評価(試験の得点、得点は100点満点)に対し下記の計算式に基づきポイントを付与し、1単位当たりの平均を算出し、5点満点で表記します。

科目毎GPA = (得点 - 50) ÷ 10【ただし、得点が50以下のときは0とする。】

$$\text{学期毎GPA} = \frac{[(\text{履修登録科目の単位数}) \times (\text{科目毎GPA})] \text{の総和}}{(\text{履修登録科目の単位数}) \text{の総和}}$$

$$\text{累積GPA} = \frac{[(\text{入学後の履修登録科目の単位数}) \times (\text{科目毎GPA}) \text{の総和}}{(\text{入学後の履修登録科目の単位数}) \text{の総和}}$$

GPAは、5点満点で、小数点第1位まで表記(小数点第2位以下切り捨て)しています。ただし、成績優秀者表彰などで順位を出す必要がある場合は、小数点第2位以下まで算出しています。

(2) GPAに算入しない科目(次に掲げる科目については、GPA算定の対象外としています。)

①教職に関する科目、②インターンシップ(1～7)、③食健康科学科の関連科目群(教職用:家庭科・栄養教諭)被服学概論、生活経営学概論、育児学、家族関係論、被服構成学実習、家庭機械・電気、学校栄養教育論、食教育実践論、④総合管理学部専門科目中の関連科目群(教職用)日本史、世界史、地理、地誌、職業指導Ⅰ、職業指導Ⅱ、⑤他大学等での履修科目、⑥外部試験による単位認定科目

(3) GPAと学生生活との関連について

①成績優秀者表彰

GPAが優秀な者に対して、大学から表彰を行います。

- (1) 成績優秀賞 各学期において、GPA算定対象科目を10科目以上修得し、かつGPAが3.5以上で学科毎に上位5%以内の者
- (2) 特別成績優秀賞 各学期において、GPA算定対象科目を10科目以上修得し、かつ4学期連続してGPAが4.0以上の者
- (3) 学長賞 卒業時に卒業要件を4年間にすべて充足し、かつ累積GPAが4.0以上で、卒業論文(研究)を優秀な成績で修めた者のうち、学長が認める者
 - (1)と(2)の表彰式は6月(前年度後学期分)と11月(当該年度前学期分)の年2回開催されます。
 - (3)の表彰は卒業式時に行われます。いずれも表彰状及び記念品が授与されます。

②成績不振者に対する個人指導

学期毎GPAが2.0未満の学生に対しては、担当教員から個人指導が行われます。

③その他

次のような場合にGPAが利用されます。

- 1) 上級学年配当科目の履修条件(総合管理学部のみ) GPA3.5以上の者、6単位
- 2) 大学院科目の履修条件(文学部及び総合管理学部)
- 3) 転学部転学科 所属する学部学科のGPA上位10%以内の者の算定
- 4) その他、授業料の減免や奨学金関係の成績要件等の判定

Ⅲ 履修について

Ⅲ 履修について

1 共通科目群について

学部4年間の教育課程（学士課程）において総合的に学ぶことで広い視野から認識・思考する能力を身につけ、「専門教育」で修得する学問を充実したものとすることを教育を行います。また、大学ユニバーサル化時代における「市民性」の涵養をも視野に入れます。以上を理念とし、次のような方針で編成しています。

- ・共通科目群を【基盤科目】と【教養科目】に分ける。
- ・【基盤科目】では、大学で学ぶための、また社会で行動していくための基礎能力を育成する教育を展開する。特に初年次に、必修科目として、大学で学ぶ姿勢と方法を理解するとともに、自己のキャリアを継続的にデザインしていく能力を育成する科目を配置し、大学4年間での主体的・計画的な学修を促す。
- ・【教養科目】では、専門分野の枠を超えて共通に求められる知識等を幅広く学び、様々な角度から物事を見ることが出来る能力を培うことで豊かな人間性を養う、いわゆる「教養教育」を展開する。

科目分野毎の目的は次のとおりです。

【基盤科目】

① 外国語

国際化の進展に伴い、発生する社会的諸問題もまた国際化する傾向にあり、これに対処するため、英語、ドイツ語、フランス語、中国語及び韓国語を置き、国際的なコミュニケーション能力の向上を目的とします。（次頁に詳細を説明）

② 健康スポーツ科学

自己の健康を自分自身で管理していくこと、また、健康維持や余暇活動に対するスポーツの有効性について理解を深めるとともに、生命のしくみや不思議さ・巧みさに関心を持ち、将来にわたり「からだと脳の健康」のために行動できる知識を得ることを目的とします。

③ 情報処理

今日の高度情報化社会において必要とされる情報ネットワークシステムに関する理解と情報機器の活用能力を修得し、あわせて情報モラルや情報セキュリティについて理解することを目的とします。

④ キャリアデザイン

大学生活が様々な分野で活躍する社会人としての自己実現のための一過程であることを認識し、主体的に自らのキャリアを構築していくための方法を学ぶことを目的とします。

⑤ 地域理解とリーダーシップ

地域への知識・理解を深め、他者と共生・協働する重要性を認識し、それらを基盤としながら発展的に応用し得る実践的能力を獲得することを目的とします。

【教養科目】

① 人間と文化

豊かな人間性を涵養するため、人間の本質に対する洞察を深め、精神的活動の所産としての文化を理解することを目的とします。

② 自然と環境

科学技術の基本的な原理や最先端の利用法に対する理解を深め、科学技術の現代社会及び環境問題とのかかわりについて多角的な考察を行うことを目的とします。

③ 社会と世界

法律、政治、経済、情報等様々な要因から規定されている社会が我々の生活にどのようにかかわっているのかを学ぶことを目的とします。また、グローバル化が進展する現代世界における経済問題・国際関係についての理解を通し、我が国の国際的位置付けや役割などについて考察し、国際人としての見識を養うことを目的とします。

〈英語〉

(全学的目標)

英語での対話を通して情報のやりとりを行い、また、新聞等の日常的文章を理解し、自分の考えを文章にできる。異文化に対する興味関心を持ち、自国文化と対照しながら、ものごとを考えることができる。

(習得すべき能力の具体的な目標)

〈環境資源学科〉

広い意味でのコミュニケーションの道具としての英語の実用的側面を重視し、基本的な英語のスキル及び科学英語を勉強するための基盤を養う。

〈居住環境学科〉

海外の建築文化や技術に興味のある学生が4技能をバランスよく修得し、個々の卒業後のキャリアにおいて、必要とされるレベルに応じた能力を身につける。

〈食健康科学科〉

広い意味でのコミュニケーションの道具としての英語の実用的側面を重視し、基本的な英語のスキル及び科学英語を勉強するための基盤を養う。

上記の目標を達成するために、英語については、以下の必修科目と選択科目が設けられています。

(必修科目)

〈3学科共通〉

科目名	開講時期	授業概要
Basic English I Basic English II	1年次前期 1年次後期	基本的な語彙を習得するとともに、話す、聴く、読む、書く能力を含む英語によるコミュニケーション能力を養成します。週に2コマ開講されるこの授業では、学生が主体となり積極的に英語を使うことを求めます。また、学習効果を上げるために、授業の予習や復習となる課題を課します。
Basic English III Basic English IV	2年次前期 2年次後期	インターネットを通して得られる英語の教材を多く使用し、Basic English I および II で学習した内容をさらに深める授業を行います。週1コマ開催されるこの授業では、インターネットから英語の情報を得て、それを利用するために必要な基本的技術を修得します。また、学習効果を上げるために、授業の予習や復習となる課題を課します。

(選択科目)

環境共生学部では、必修科目の Basic English I～IV で学ぶ基礎的なスキルに加え、英語の技能をさらに発展させるために、2年次の選択科目として「Intermediate English I」および「Intermediate English II」を開講しています。

環境資源学科および食健康科学科では必修科目 Basic English I～IV (合計6単位)に加えて、選択科目より Intermediate English I、IIを含めた2単位以上を修得する必要があります。

<環境共生学部のみ>

科目名	開講時期	授業概要
Intermediate English I Intermediate English II	2年次前期 2年次後期	英文を読む力と書く力を養成します。そのために、読む速度を速め、語彙を増やし、読んだ内容を評価してまとめ、考察する能力を高めるための訓練を行います。また、学習効果を上げるために、授業の予習や復習となる課題を課します。

上記科目に加え、全学共通の「選択科目」が多数開講されています。さらに英語を用いた高度なコミュニケーション能力を身につけたい、あるいはビジネス、読解能力、プレゼンテーション等の特定のスキルについて力をつけたい学生を対象とした科目として1年次から履修可能な次の科目が開講されています。

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">● Advanced English I、II● English for Global Business I～IV● Language & Culture I、II● Intensive English (集中講義) | <ul style="list-style-type: none">● English for Studying Abroad● Presentation English I、II● Selected Readings in English |
|---|--|

【各種検定試験について】

本人の希望により TOEIC[®]、TOEFL iBT[®]、実用英語技能検定(英検)のスコアあるいは級による単位認定の申請が行われた場合には、以下の基準により単位認定します。

単位認定の対象となる科目	TOEIC [®] による 取得点数	TOEFL iBT [®] による 取得点数	実用英語技能検定 における合格級	修得できる 単位数※1	評価
Basic English I	645点以上	68点以上	準1級	2単位	秀
Basic English II	730点以上	79点以上		4単位	秀
Basic English III					
Basic English IV	800点以上	90点以上	1級	6単位	秀

※1 上記の検定試験等の外部試験の対応する取得点数、合格級を得た場合に修得できる単位数を示す

〈初修外国語〉

初修外国語を履修する場合、環境資源学科および食健康科学科では、異文化に対する興味や関心を持ち、理解を深めることを目指します。居住環境学科では、建築ならびに都市・地域計画の学問領域において、世界の様々な文化や歴史、風土、建物、街の成り立ちの関連を理解することが重要であり、初修外国語の学習を通じた世界的視野を育成することを目指します。

（全学的目標）

週1回90分の授業で、当該外国語を理解する最低限の初級文法と語彙を習得し、基本的表現を発信する能力を習得する。併せて異文化に対する理解を深める。

（習得すべき能力の具体的な目標）

〈3学科共通〉

当該外国語を理解する最低限の初級文法と語彙、基本的表現を発信する能力を習得し、異文化に対する理解能力を高めることを目標とする。

初修外国語科目として、ドイツ語、フランス語、中国語及び韓国語が開設されています。各言語について、1年次に、週1コマコースと週2コマコースが開講されています。週1コマコース「入門AⅠ・AⅡ」（初級）では、前・後期とも週1回の授業で1年間かけて初級レベルを学習します。また、より集中的に学習する週2コマコースも開講されており、環境資源学科及び居住環境学科の希望者は履修することができます。このコースでは、1年次前期の「入門B」（初級、週2回）で初級レベルを学習し、1年次後期「基礎」（中級、週2回）では中級レベルを学習します。さらに、2年次には「発展Ⅰ・Ⅱ」（上級、週1回）が開講されています。「発展Ⅰ・Ⅱ」は「基礎」（中級）レベルを学習し終えていることを前提とします。各学部・学科によって卒業要件単位が異なるので注意してください。

環境共生学部カリキュラムの概要（共通科目群） [平成27年度以降入学者（環境資源学科・食健康科学科）]

	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		卒業に必要な単位数	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎科目	Basic English I ② Basic English II ②	Basic English III ① Intermediate English I (1)	Basic English IV Intermediate English II (1)						8 単位以上	
	(前期) Advanced English I (1), English for Studying abroad (1), English for Global Business I (1), Presentation English I (1), Language and Culture I (1)									
	(後期) Advanced English II (1), English for Global Business II (1), English for Global Business IV (1), Presentation English II (1), Selected Readings in English (1), Language and Culture II (1), Intensive English (2)									
共通科目群	Basic English I～IV 6 単位は必修、その他全15科目16単位から、Intermediate English I, II を含めた2 単位以上選択必修									
	外国語	フランス語入門A I (1)	フランス語入門A II (1)	フランス語発展 I (1)	フランス語発展 II (1)					
		フランス語入門B (2)	フランス語基礎 (2)	ドイツ語発展 I (1)	ドイツ語発展 II (1)					
		ドイツ語入門A I (1)	ドイツ語入門A II (1)	ドイツ語基礎 (2)	ドイツ語発展 I (1)					
		ドイツ語入門B (2)	ドイツ語基礎 (2)	中国語入門A I (1)	中国語発展 I (1)					
		中国語入門A I (1)	中国語入門A II (2)	中国語入門B (2)	中国語発展 II (1)					
	韓国語入門A I (1)	韓国語入門A II (2)	韓国語入門B (2)	韓国語発展 I (1)	韓国語発展 II (1)					
	健康科学 ②									
	健康スポーツ実習 I (1)	健康スポーツ実習 II (1)							3 単位以上	
	健康科学 2 単位は必修、生涯スポーツ実習 I 1 単位及び生涯スポーツ実習 II 1 単位から 1 科目 1 単位以上選択必修									
情報処理 ②								2 単位		
キャリアデザイン	プレゼミナール ①								2 単位	
	キャリア形成論 ①									
地域理解とリーダーシップ	もやいすと (地域) ジュニア育成 (2), もやいすと (防災) ジュニア育成 (2)									
	もやいすと (地域) ジュニア育成 2 単位及びもやいすと (防災) ジュニア育成 2 単位から 1 科目 2 単位以上選択必修									
	減災リテラシー入門 (2)									
教養科目	もやいすとシニア育成 (2)									
	新熊本学：ことば、表現、歴史 (2), 新熊本学：熊本の生活と環境 (2), 新熊本学：地域のビジネスリーダーに学ぶ (2), 新熊本学：地域社会と協働 (2)									
	新熊本学全 4 科目 8 単位から、1 科目 2 単位以上選択必修									
	新熊本学：ことば、表現、歴史 (2), 新熊本学：熊本の生活と環境 (2), 新熊本学：地域のビジネスリーダーに学ぶ (2), 新熊本学：地域社会と協働 (2)									
人間と文化	哲学の基礎 (2), 科学の思想 (2), 人間と宗教 (2), 心理学入門 (2), 人権と文化 (2), 人間と教育 (2), 現代世界と歴史 (2), 現代日本の歩み (2), 現代の文学 (2), 人間と芸術 (2), 西洋文化圏の理解 (2), 東アジア文化圏の理解 (2)									
	全 12 科目 24 単位から、1 科目 2 単位以上選択必修									
自然と環境	環境と生物圏 (2), エネルギーと社会 (2), 海の生物資源 (2), 人間と植物生産 (2), 暮らしの中の化学技術 (2), 環境と生きる (2), 住まいと地域環境 (2), 食と健康 (2)									
	全 8 科目 16 単位から、1 科目 2 単位以上選択必修									
社会と世界	現代の国際関係 (2), 世界の経済 (2), 国際協力論 (2), 生活と憲法 (2), 現代社会と政治 (2), 現代社会と法律 (2), 情報と社会 (2), マスメディア論 (2), 現代社会と企業 (2)									
	全 9 科目 18 単位から、1 科目 2 単位以上選択必修									
上記の25 単位の他に 4 単位以上を修得し、共通科目群から併せて 29 単位以上を修得すること。										
共通科目群合計										
専門科目群										
合計										

(注 1) 単位数の○印は必修、() 印は選択、[] 印は自由科目の単位数を表します。開設時 (前期、後期) は変更されることがあります。

(注 2) 環境共生学部の他学科における学科専門科目は、20 単位を上限として卒業要件として認められます。

環境共生学部カリキュラムの概要（共通科目群） [平成27年度以降入学者（居住環境学科）]

	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		卒業に必要な 単位数	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎 教科 科目	Basic English I	② Basic English II	② Basic English III Intermediate English I (1)	① Basic English IV Intermediate English II (1)						
	(前期)									
	Advanced English I (1), English for Studying abroad (1), English for Global Business I (1), English for Global Business III (1), Presentation English I (1), Language and Culture I (1)									
	(後期)									
	Advanced English II (1), English for Global Business II (1), English for Global Business IV (1), Presentation English II (1), Selected Readings in English (1), Language and Culture II (1), Intensive English (2)									
	外国語	フランス語入門A I	フランス語入門A II (1)	フランス語発展 I (1)	フランス語発展 II (1)					8 単位以上
		フランス語入門B (2)	フランス語基礎 (2)							
		ドイツ語入門A I (1)	ドイツ語入門A II (1)	ドイツ語発展 I (1)	ドイツ語発展 II (1)					
		ドイツ語入門B (2)	ドイツ語基礎 (2)							
		中国語入門A I (1)	中国語入門A II (1)	中国語発展 I (1)	中国語発展 II (1)					
中国語入門B (2)		中国語基礎 (2)								
韓国語入門A I (1)	韓国語入門A II (1)	韓国語発展 I (1)	韓国語発展 II (1)							
韓国語入門B (2)	韓国語基礎 (2)									
Basic English I～IV 6 単位は必修、その他39科目48単位から、Intermediate English I、II を含めた2 単位以上選択必修										
共通 科目 群	健康の科学 ②									
	健康スポーツ実習 I (1) 生涯スポーツ実習 II (1)									
	健康の科学2 単位は必修、生涯スポーツ実習 I 1 単位及び生涯スポーツ実習 II 1 単位から1 科目1 単位以上選択必修									
	情報処理入門 ②									
キャリアデザイン	プレゼミナール ①				インターンシップ1～7 [各1] ※自由科目とし卒業要件の単位数には含まない					
	キャリア形成論 ①									
地域理解と リーダーシップ	もやいすと(地域)ジュニア育成 (2), もやいすと(防災)ジュニア育成 (2)									
	もやいすと(地域)ジュニア育成2 単位及びもやいすと(防災)ジュニア育成2 単位から1 科目2 単位以上選択必修									
	減災リテラシー入門 (2)									
	もやいすとシニア育成 (2)									
教養 科目	新熊本学：ことば、表現、歴史 (2), 新熊本学：熊本の生活と環境 (2), 新熊本学：地域のビジネスリーダーに学ぶ (2), 新熊本学：地域社会と協働 (2)									
	新熊本学全4 科目8 単位から、1 科目2 単位以上選択必修									
	新熊本学：ことば、表現、歴史 (2), 新熊本学：熊本の生活と環境 (2), 新熊本学：地域のビジネスリーダーに学ぶ (2), 新熊本学：地域社会と協働 (2)									
	新熊本学全4 科目8 単位から、1 科目2 単位以上選択必修									
人間と文化	哲学の基礎 (2), 科学の思想 (2), 人間と宗教 (2), 心理学入門 (2), 人権と文化 (2), 人間と教育 (2), 現代世界と歴史 (2), 現代の文学 (2), 人間と芸術 (2), 西洋文化圏の理解 (2), 東アジア文化圏の理解 (2)									
	全12科目24単位から、1 科目2 単位以上選択必修									
	環境と生物圏 (2), エネルギーと社会 (2), 海の生物資源 (2), 人間と植物生産 (2), 暮らしの中の化学技術 (2), 環境と生きる (2), 住まいと地域環境 (2), 食と健康 (2)									
	全8 科目16 単位から、1 科目2 単位以上選択必修									
自然と環境	現代の国際関係 (2), 世界の経済 (2), 国際協力論 (2), 生活と憲法 (2), 現代社会と政治 (2), 現代社会と法律 (2), 情報と社会 (2), マスメディア論 (2), 現代社会と企業 (2)									
	全9 科目18 単位から、1 科目2 単位以上選択必修									
社会と世界	上記の25 単位の他に4 単位以上を修得し、共通科目群から併せて29 単位以上を修得すること。									
	全9 科目18 単位から、1 科目2 単位以上選択必修									
共通科目群合計										
専門科目群										
合計										

(注1) 単位数の○印は必修、() 印は選択、[] 印は自由科目の単位数を表します。開設時(前期、後期)は変更されることがあります。

(注2) 環境共生学部の他学科における学科専門科目は、20単位を上限として卒業要件として認められます。

2 専門科目群について

環境共生にかかわる諸問題の多様化に対応しうる総合性と専門性を涵養し、問題を解決するための専門的理論と技術を修得するため専門科目群を配置しています。

① 学部共通科目

まず、環境共生にかかわる諸問題を総合的に捉え、環境共生の理念を理解するために、学部共通の科目として配置しています。合計11単位はすべて必修です。

A 「導入科目」

環境共生にかかわる諸問題の全体像を認識し、各領域の位置づけを理解するために、導入科目を置いています。まず、「現代生活と環境問題」を配置し、その上で環境資源学、居住環境学及び食健康科学領域等から、入門的科目（「地球環境を考える」「居住環境を創る」「食と環境」）を配置しています。併せて実証的教育の導入として「フィールドワーク」を配置しています。

B 「情報処理実習」

C 「環境共生総合演習」

3年前期までに修得した知識と経験の上に立って、改めて環境共生にかかわる諸問題を考え直し、これらの問題に自主的に取り組む科目である「環境共生総合演習」を必修科目として配置しています。

② 学科専門科目

「導入科目」で得られる知識を具体的に各専門領域で展開し専門性を養います。専門的知識と技術を修得する科目として各「学科専門科目」を配置しています。

「基礎科目」及び「展開科目」から合計96単位を卒業要件としています。

なお、他学科の「学科専門科目」についても、20単位を上限として卒業要件単位として認めます。

3 環境資源学科の教育課程紹介

環境共生にかかわる諸問題を科学的に解明し対処するための基礎的な自然科学の知識と理解力を養成し、併せて、生態系の仕組みを理解し、人間活動が環境資源に及ぼす影響を調査、解析、評価する能力を育成します。また、環境資源の保全と適正利用による、持続可能な生物資源の生産技術ならびに社会発展のための方策について教育します。そのために必要な基礎および展開科目を設けています。

○「基礎科目」

基礎的な自然科学の知識と理解力を養成するために、必要な理科一般（物理学・化学・生物学・地学）、数学、統計学および情報処理を含む科目を配置しています。

○「展開科目」

本学科の教育目的を達成するために必要な生態、生物資源、物質環境、環境計画に関して調査・分析能力を育成するための科目を配置します。

特に、本学科の特徴とする環境評価を、沿岸域環境アセスメント実習、森林環境アセスメント実習、水産環境アセスメント実習および植物生産環境アセスメント実習の4種のアセスメント実習で実証的に体験します。

a 生態関係科目

海洋および森林の生態系の構造と機能、保全と利用のための方策を学びます。

b 生物資源関係科目

海洋および陸上で生産される生物資源の特性と機能、栽培・増殖法、生産環境、生産物の利用法について学びます。

c 物質環境関係科目

環境における物質およびその移動、循環に関する化学的、物理的な知識と環境への影響を評価する手法を学びます。

d 環境計画関係科目

環境資源を保全しつつ、恒久的に利用し、持続可能な社会発展を遂げるために必要な計画論、法規、政策、制度について学びます。

履修科目年次配当表（環境資源学科）[平成30年度（2018年度）版]

区分	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		卒業に 必要な 単位数	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
共通科目群	必修科目及び選択必修科目を含め29単位以上を修得すること。									
学 部 共 通 科 目	② 現代生活と環境問題	② ファイールドワーク	①							29
	② 地球環境を考える	②								
	② 居住環境を創る	②								
	② 食と環境	②								9
基 礎 科 目	① 情報処理実習	①								2
	(2) 生物学II	(2) 生物学II	(1) 物理学実験	(1) 統計学演習	(1) 地学I	(2) 地学II				
	(1) 有機化学	(2) 統計学	(2) 統計学	(2) 統計学	(1) 地学実験I	(1) 地学実験II				
	(2) 基礎化学	(1) 化学実験	(1) 環境情報処理実習	(1) 環境情報処理実習		(1) 応用情報処理実習				
	(2) 物理学I	(2) 物理学II	(2) 物理学II	(2) 物理学II						
	(2) 数学I	(2) 数学II	(2) 数学II	(2) 数学II						
基 礎 科 目 中 の 生 物 学 I ・ II、基 礎 化 学、有 機 化 学、物 理 学 I ・ II、地 学 I ・ II、数 学 I ・ II 及 び 統 計 学 以 上 を 8 科 目 16 単 位 以 上 を 修 得 す る 事 由、生 物 学 実 験、化 学 実 験、物 理 学 実 験、地 学 実 験 I ・ II、統 計 学 演 習、環 境 情 報 処 理 実 習 及 び 応 用 情 報 処 理 実 習 か ら 6 科 目 6 単 位 以 上 を 修 得 す る 事 由。										
生 態	② 森林生態学	② 海洋生態学	② 沿岸環境アセスメント実習	② 森林資源学	② 沿岸環境アセスメント実習	② 沿岸環境保全論				
生 物 資 源	② 植物生産学	② 食資源開発学	② 植物食資源学	② 食品学総論(資)	② 食品学総論(資)	② 魚類環境生理学				88
	② 海洋微生物学	② 水産環境学	② 植物生産学	② 食品学総論(資)	② 食品学総論(資)	① 水産環境アセスメント実習				
	② 水産環境学	② 環境分析化学	② 環境分析化学	② 高分子化学	② 環境分析化学	② 環境分析化学実験II				
展 開 科 目	② 環境分析化学	② 高分子化学	② 環境分析化学実験I	② 高分子化学実験	② 環境衛生学	② 環境素材学				
物 質 環 境	② 環境分析化学	② 高分子化学	② 環境分析化学実験I	② 高分子化学実験	② 環境衛生学	② 環境素材学				
	② 環境分析化学	② 高分子化学	② 環境分析化学実験I	② 高分子化学実験	② 環境衛生学	② 環境素材学				
	② 環境分析化学	② 高分子化学	② 環境分析化学実験I	② 高分子化学実験	② 環境衛生学	② 環境素材学				
	② 環境分析化学	② 高分子化学	② 環境分析化学実験I	② 高分子化学実験	② 環境衛生学	② 環境素材学				
環 境 計 画	② 環境経済学	② 環境関連法規	② 環境関連法規	② 農山村域計画学	② 都市計画	② 地域景観計画学				
	② 環境経済学	② 環境関連法規	② 環境関連法規	② 農山村域計画学	② 都市計画	② 都市居住政策学				
	② 環境経済学	② 環境関連法規	② 環境関連法規	② 農山村域計画学	② 都市計画	② 都市居住政策学				
卒 業 研 究	② Science English I	② Science English II	② Science English I	② Science English II	② Science English I	② Science English II				8
合 計										136

注1 単位数の囲みは必修科目、()は選択必修科目の単位数です。

注2 環境共生学部内の他学科における学科専門科目は、20単位を上限として卒業要件単位として認められます。

4 居住環境学科の教育課程紹介

「環境共生」の視点から、住宅・建築・都市・農山村地域・自然に至る居住環境の全体を見据える実体験を通じた科学的認識能力を育成します。

その上で、地方文化に根ざし、地域資源を活用し、更には健康・福祉を重視した居住環境の改善・創造に寄与しうるデザイン、計画、調整、構築に関する確実な知識・技能的能力を習得することを目的としています。併せて、関連する社会科学的知識・素養及び生態に関する知識も教育します。そのために必要な基礎及び展開科目を設けています。

○「基礎科目」

学科全般にわたって必要な設計製図・デザイン実習、力学・環境調整と不可分の物理学・数学に関連する科目を配置しています。

○「展開科目」

本学科の教育目標に沿って、期待される成果が確実に得られるように、居住環境デザイン実習、居住環境調整工学実験、木質構造を含む居住空間構造・材料実験等、実習・実験を多く取り入れ、農村・都市環境、居住空間、環境調整・設備、構造・材料、地域計画に関する科目を配置しています。

a 農村・都市環境関係科目

人間活動と自然とが直接に結びつく農山村域のありようを、環境共生の視点から学び、その持続及び地方都市のスケールと構成に着目し、環境負荷軽減型都市生活とその基盤形成に関する計画理論と技術を学びます。

b 居住空間関係科目

地域の自然と文化に根ざした住空間生成の歴史と現状を学び、豊かな地域性と時代性のある住空間及び高齢者、身障者等の社会的弱者の生活・社会参加を保障し、地域福祉の視点に立つ居住環境の計画理論と技術を学びます。

c 環境調整・設備関係科目

環境への負荷軽減と健康をテーマとした居住環境調整と環境リスクマネジメント及び様々な居住空間における環境設備に関する知識とそれらのシステム構築に関する計画理論と技術を学びます。

d 構造・材料関係科目

循環システムを重視した地域資源の活用を視野に入れた居住空間の構築について、構造的な安全性、技法、空間造形に関する力学及び、そのための材料の選択、活用、構成の仕方に関する知識、理論及び技術を学びます。

e 地域計画関係科目

環境科学、環境政策・法規、地域経済・政策等、自然科学と社会科学を総合した地域計画に関する知識・理論を学びます。

履修科目年次配当表 (居住環境学科) [平成30年度 (2018年度) 版]

区分	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		卒業に 必要な 単位数	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
共通科目群	必修科目及び選択必修科目を含め29単位以上を修得すること。									
学部 共通科目	現代生活と環境問題 ② 地球環境を考える ② 居住環境を創る ② 食と環境 ②	① フィールドワーク								9
基礎 科目	図学 ② 居住環境デザイン実習Ⅰ② 数学Ⅰ ② 物理学Ⅰ ②	① 情報処理実習 ② 居住環境デザイン実習Ⅱ ② 数学Ⅱ ② 物理学Ⅱ ②	CAD実習Ⅰ ①						① 環境共生総合演習 (1) 応用情報処理実習	2
専門科目群	農村部の環境 ② 居住空間 ② 環境調整 ② 展開科目 ② 構造・材料 ② 地域計画 ② 全体共通 ②	比較都市文化論 ② 建築史 ② 住空間計画学 ② 建築環境工学Ⅰ ② 建築環境工学Ⅱ ② 環境設備学 ② 木質構造学 ② 静定構造力学 ② 静定構造力学演習 ① 森林生態学 ② 居住環境デザイン実習Ⅲ ② 木質材料活用論 ②		都市計画 ② 農山村域計画学 ② インテリアデザイン実習 ② 木質デザイン論 ② 環境設備システム学 ② 環境設備システム学演習 ② 鉄筋コンクリート構造学 ② 居住空間構造・材料実験 ② 大気環境学 ② 環境関連法規 ② 居住環境デザイン実習Ⅳ ② 居住環境デザイン実習Ⅴ ② C.A.D実習Ⅱ ②		都市居住政策学 ② 地域景観計画学 ② 福祉住環境原論 ② インテリアデザイン実習 ② 木質デザイン論 ② 環境設備システム学 ② 環境調整工学 ② 鉄骨構造学 ② 居住空間構造・材料実験 ② 環境経済学 ② 地方自治論 ② 居住環境デザイン実習Ⅵ ② 環境防災・安全工学 ② 建築法規 ②				8
合計										136

注1 単位数○印みは必修科目、【】印みは必修科目、環境共生総合演習及び卒業論文、() は選択科目の単位数です。
 注2 環境共生学部の他学科における卒業要件として卒業要件と認められます。

5 食健康科学科の教育課程紹介

「環境共生」の視点から、自然環境への負担を軽減し、地域の環境特性を反映した食と健康について、基本的知識と実践の方策を修得するため、まず、食と健康に関する基礎的な自然科学の知識と理解力を養成するとともに、食品の特性と人体の機構についても有機的に学びます。

その上で、食糧生産環境の現状と人間にとっての健全な環境についての知識を含めて、食資源の開発、食品の加工と衛生、栄養の科学、食や運動を通じた健康管理にかかわる理論と技術を学びます。そのために必要な基礎及び展開科目を設けています。

○「基礎科目」

食品、栄養、運動及び健康を学ぶための基礎となる化学と生物学に関連する科目並びに物理学、統計学を含む科目を配置しています。

○「展開科目」

本学科の教育目標に沿って、展開科目の内容を理解し、期待される成果が確実に得られるように、食品バイオテクノロジー実験、食品加工学実験、栄養学実験、臨床栄養学実習をはじめとする実験実習を含む実証性を重視した食環境と健康環境に関する科目を配置しています。

なお、学外で予定している実習については、小学校・病院等の施設で行います。

a 食環境関係科目

食をめぐる環境に関し、食品の物理・化学的性質と調理・加工・流通に伴う変化並びに食品の安全性を理解した上で、環境と共生できる食資源の開発・利用について学びます。

b 健康環境関係科目

健康をめぐる環境に関し、食品機能・栄養科学、解剖・運動生理など、人体の構造・機能・生理を理解した上で、食や運動を通じた健康管理について学びます。

○「関連科目」

本学科の教育に関連が深い教育職員免許における教科に関する科目および管理栄養士免許に関する科目を配置しています。なお、「関連科目」は卒業要件単位数に含めることはできません。

履修科目年次配当表（食健康科学科）〔平成30年度（2018年度）版〕

区分	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		卒業に 必要な 単位数	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
共通科目群	必修科目及び選択必修科目を含め29単位以上を修得すること。									
学 部	② 現代生活と環境問題 ② ファイールドワーク									
学 科	② 地球環境を考える ② 居住環境を創る									
専 門 科 目	② 食と環境									
基礎科目	生物学 I 基礎化学 化学実験 物理学 I 有機化学	(2) (2) ① (2) (2)	生物学 II 物理学実験 物理学 II 生命有機化学 生化学	(2) (1) (2) ② (2)	統計学 物理学実験	(2) (1)	環境共生総合演習 生化学実験 応用情報処理実習	① (1) (1)		29
基礎科目中の選択必修科目から 8 単位以上を修得すること。										
食 環 境	調理学 食品学総論	(2) (2)	食品化学 食資源開発学 調理学実習 II 植物生産学 食文化論	(1) (2) (2) (2) (2)	環境衛生学 食品学各論 食品学実験 食品加工学実験 食品衛生学実験 食品製造学 食品衛生学 食品加工学	(2) (2) (1) (2) (2) (2) (2)	食品バイオテクノロジー 食品バイオテクノロジー実験 食品保存学 食品衛生学 食品安全性学	(2) (1) (2) (2)		88
健康環境	解剖生理学 栄養教育論	(2) (2)	環境生理学 栄養学総論 栄養学実験 生体防御学 栄養教育論実習 栄養生化学	(2) (2) (1) (2) (1) (2)	健康管理学 栄養運動生理学 栄養機能性学 福祉・介護食生活支援論 給食管理実習 疾病論 給食経営管理 臨床代謝栄養学 臨床栄養学実習 臨床治療食実習	(2) (2) (1) (2) (1) (2) (2) (2) (1) (1)	生活習慣病予防学 栄養運動生理学実習 ライフステージ栄養学演習 福祉・介護食実習 給食経営管理臨床実習 公衆栄養学 臨床代謝栄養学 公衆衛生学 臨床栄養学臨床実習	(2) (1) (2) (1) (1) (2) (2) (2) (1) (2)	地域栄養アセスメント実習 (1) 公衆栄養学臨床実習 (1) 臨床外科栄養学 (2) 実践栄養学総合演習 (4)	
関連科目	生活経営学概論 被服学概論	(2) (2)	育児学 家庭機械・電気 (16年度以降入学)	(2) (2)	家族関係論 被服構成学実習 (2) ※通年で 2 単位です。	(2)	食教育実践論	(2)	管理栄養士特別演習 (17年度以降入学) (2) 家庭機械・電気 (15年度以前入学) (2)	8
卒業研究										
合 計										136

注 1 単位数○囲みは必修科目、() は選択必修科目の単位数です。

注 2 環境共生学履修の他学科における学科専門科目は、20単位を上限として卒業要件単位として認められます。

注 3 学科専門科目のうち、関連科目は卒業要件単位に含まれません。

★ 開講時期 (前期・後期) は変更されることがあります。

6 進級の要件

第2年次末までに共通科目群のプレゼミナール及びキャリア形成論の合計2単位並びに学部共通科目の導入科目9単位及び情報処理実習を含めて合計60単位以上を修得した学生は、第3年次に開設される授業科目を履修することができます。

7 卒業論文履修要件

卒業予定年次の前年度末までに共通科目群及び専門科目群から学部共通科目11単位（環境共生総合演習1単位を含む）を含めて合計110単位以上を修得した学生は、卒業論文を履修することができます。

8 卒業の要件

次頁を参照してください。

9 他学部開講科目の履修について

他学部開講科目（以下「他学部科目」といいます。）の履修願を履修届と一緒に教務入試課に提出することにより文学部と総合管理学部の開講科目を履修することができます。ただし、原則として演習・実習及び実験は対象外とします。

また、修得した単位は10単位を上限とし専門科目群の卒業要件単位数に含めることができます。ただし、教職に関する科目は、卒業要件単位数に含めることはできません。

対象となる科目については、各学部の履修の手引等を参照してください。

なお、環境共生学部内の他学科で開設されている学科専門科目（以下「他学科科目」といいます。）は、33頁に記載のとおり20単位を上限として卒業要件単位数に含めることができますが、他学部科目の修得単位と他学科科目の修得単位の両方を卒業要件単位数に含める場合は、20単位が限度となりますので注意してください。

10 外国人留学生の特別科目に関する履修の特例について

ア 外国人留学生は母語を外国語として履修することはできません。履修言語が母語ではなく公用語である場合、その言語の履修上の扱いは学部がその都度決めます。

イ 英語を母語としない留学生は、環境資源学科および食健康科学科では英語8単位を必修、居住環境学科では英語6単位を必修とします。また、日本語を初修外国語とすることができ、必修以外の単位に振り替えることもできます。

ウ 英語を母語とする留学生は、外国語8単位のうち日本語6単位を必修とします。必修以外の2単位は日本語及び初修外国語から修得してください。

エ 外国人留学生が修得した日本事情科目の単位のうち4単位までを共通科目群の「その他の単位」（注1）に振り替えることができます。

（注1）「その他の単位」については、卒業要件のページ（次頁）を参照してください。

＜卒業要件単位数＞

4年以上在学し、次の単位数以上を修得しなければいけません。

区分	分類	分野		配当 単位数	卒業要件単位数			
					必修単位数	選択単位数		
共通科目群 a	外国語	Basic English I～IV	b	6	6			
		英語以外の外国語	c	32				
		bとc以外の科目 (Basic English 以外の英語科目)	d	16		2		
	基盤科目	健康スポーツ科学	e	4	2	1		
		情報処理	f	2	2			
		キャリアデザイン	g	2	2			
	地域理解と リーダーシップ	もやいすと（地域）ジュニア育成	h	4		2		
		もやいすと（防災）ジュニア育成	i	8		2		
		新熊本学	j	4				
	教養科目	人間と文化	k	24		2		
		自然と環境	l	16		2		
		社会と世界	m	18		2		
	計（A）				136	12	13	
					29			
					※上記25単位の他に4単位数以上修得する。			
学部 共通科目	導入科目			9				
	環境共生総合演習			1				
	情報処理実習			1				
	計（C）			11				
	専 門 科 目 群	学 科 専 門 科 目	環境資源学科		食健康科学科			
			配当 単位数	卒業要件単位数		配当 単位数	卒業要件単位数	
				必修 単位数	選択 単位数		必修 単位数	選択 単位数
			基礎科目	30	—	22	24	4
		展開科目	71	28		107	—	
	卒業研究	8	8		8	8		
計（D）	109	96以上 上記58単位の他に 38単位数以上修得する。		139	96以上 上記20単位の他に 76単位数以上修得する。			
計(B) = (C) + (D)	120	107以上		150	107以上			
計(A) + (B)		287	136以上		317	136以上		

(注1) a 必修科目12単位、指定された選択必修科目13単位、それ以外に共通科目群の選択科目より4単位（その他の単位：共通科目群aの※部分）の合計29単位以上を修得すること。

b 英語は「Basic English I」から「Basic English IV」の4科目6単位は必修とする。

d bとc以外の外国語（15科目16単位）から「Intermediate English I, II」を含めた2単位以上を選択必修とする。

e 「健康の科学」は必修とし、「生涯スポーツ実習 I」「生涯スポーツ実習 II」から1科目1単位を選択必修とする。

f 「情報処理入門」は必修とする。

g 「プレゼминаール」「キャリア形成論」は必修とする。

h 「もやいすと（地域）ジュニア育成」「もやいすと（防災）ジュニア育成」から1科目2単位を選択必修とする。

i 新熊本学は4科目8単位から1科目2単位を選択必修とする。

j 地域理解とリーダーシップのhとi以外の科目（2科目4単位）を修得した場合はその他の単位（共通科目群aの※部分の単位）に含むことができる。

k, l, m 各分野からそれぞれ1科目2単位以上を選択必修とする。

(注2) 『専門科目群』は、他学科専門科目20単位を上限として卒業要件単位数に含めることができる。

<卒業要件単位数>

4年以上在学し、次の単位数以上を修得しなければいけません。

区分	分類	分野		配当 単位数	卒業要件単位数		
					必修単位数	選択単位数	
共通 科目群 a	外国語	Basic English I～IV	b	6	6		
		英語以外の外国語	c	32			
		bとc以外の科目 (Basic English 以外の英語科目)	d	16		2	
		健康スポーツ科学	e	4	2	1	
		情報処理	f	2	2		
		キャリアデザイン	g	2	2		
		地域理解と リーダーシップ	もやいすと (地域) ジュニア育成	h	4		2
			もやいすと (防災) ジュニア育成	i	8		2
			新熊本学	j	4		
	教養科目	人間と文化	k	24		2	
		自然と環境	l	16		2	
		社会と世界	m	18		2	
	計 (A)				136	12	13
					29 ※上記25単位の他に4単位数以上修得する。		
専門 科目群	学部共通 科目	導入科目			9		
		環境共生総合演習			1		
		情報処理実習			1		
	計 (C)					11	
	学科専門 科目				配当 単位数	居住環境学科	
						卒業要件単位数	
		基礎科目			16	7	
		展開科目			90	43	
	卒業研究			8	8		
	計 (D)				114	96以上 上記58単位の他に 38単位数以上修得する。	
計(B) = (C) + (D)				125	107以上		
計(A) + (B)				292	136以上		

(注1) a 必修科目12単位、指定された選択必修科目13単位、それ以外に共通科目群の選択科目より4単位（その他の単位：共通科目群aの※部分）の合計29単位以上を修得すること。

b 英語は「Basic English I」から「Basic English IV」の4科目6単位は必修とする。

c, d b以外の外国語から「Intermediate English I, II」を含めた2単位以上を選択必修とする。

e 「健康の科学」は必修とし、「生涯スポーツ実習 I」「生涯スポーツ実習 II」から1科目1単位を選択必修とする。

f 「情報処理入門」は必修とする。

g 「プレゼミナール」「キャリア形成論」は必修とする。

h 「もやいすと (地域) ジュニア育成」「もやいすと (防災) ジュニア育成」から1科目2単位を選択必修とする。

i 新熊本学は4科目8単位から1科目2単位を選択必修とする。

j 地域理解とリーダーシップのhとi以外の科目（2科目4単位）を修得した場合はその他の単位（共通科目群aの※部分の単位）に含むことができる。

k, l, m 各分野からそれぞれ1科目2単位以上を選択必修とする。

(注2) 『専門科目群』は、他学科専門科目20単位を上限として卒業要件単位数に含めることができる。

11 学科別授業一覧

共通科目群(3学科共通)

時間割コード	授業科目名	教職科目	担当者(非常勤)	○は単位数 は必修	配当年次	週コマ数	備考
◆基盤科目							
◇外国語							
11120121	Basic English I a (資)	教職	(Mortenson)・Morrow	②	1年前期	2	
11120122	Basic English I b (居)		Morrow	②	1年前期	2	
11120123	Basic English I c (居)		(Cairns・Gilbert)	②	1年前期	2	
11120124	Basic English I d (食)	教職	(Miller・Laskowski)	②	1年前期	2	
11120125	Basic English I e (食)	教職	Morrow・(Cairns)	②	1年前期	2	
11120221	Basic English II a (資)	教職	(Mortenson・Cairns)	②	1年後期	2	
11120222	Basic English II b (居)		(Gilbert・Lambert)	②	1年後期	2	
11120223	Basic English II c (居)		Morrow	②	1年後期	2	
11120224	Basic English II d (食)	教職	(Gilbert・Cairns)	②	1年後期	2	
11120225	Basic English II e (食)	教職	(Cairns)・Morrow	②	1年後期	2	
11120321	Basic English III (資)		(Remmerswaal)	①	2年前期	1	
11120322	Basic English III (居)		(Gilbert)	①	2年前期	1	
11120323	Basic English III (食)		(Cairns)	①	2年前期	1	
11120421	Basic English IV (資)		(Lambert)	①	2年後期	1	
11120422	Basic English IV (居)		Morrow	①	2年後期	1	
11120423	Basic English IV (食)		(Cairns)	①	2年後期	1	
11160501	Intermediate English I a (資・居)		(Cairns)	1	2年前期	1	
11160502	Intermediate English I b (資・居)		(Jenkinson)	1	2年前期	1	
11160503	Intermediate English I c (食)		(Mortenson)	1	2年前期	1	
11160504	Intermediate English I d (食)		(Gilbert)	1	2年前期	1	
11160601	Intermediate English II a (資・居)		(Jenkinson)	1	2年後期	1	
11160602	Intermediate English II b (資・居)		(Cairns)	1	2年後期	1	
11160603	Intermediate English II c (食)		(Gilbert)	1	2年後期	1	
11160604	Intermediate English II d (食)		(Gilbert)	1	2年後期	1	
11150101	Advanced English I		(有働)	1	1～4年前期	1	
11150201	Advanced English II		(Cairns)	1	1～4年後期	1	
11150301	English for Studying Abroad		(岡崎)	1	1～4年前期	1	
11150401	English for Global Business I		野々宮	1	1～4年前期	1	
11150501	English for Global Business II		(矢ヶ部)	1	1～4年後期	1	
11150601	English for Global Business III		(岡崎)	1	1～4年前期	1	
11150701	English for Global Business IV		(岡崎)	1	1～4年後期	1	
11150801	Presentation English I		(Tomei)	1	1～4年前期	1	
11150901	Presentation English II		(Cairns)	1	1～4年後期	1	
11151001	Language and Culture I		原	1	1～4年前期	1	
11151101	Language and Culture II		吉田	1	1～4年後期	1	
11151201	Selected Readings in English		(岡崎)	1	1～4年後期	1	
11151301	Intensive English		Lavin・他	2	1～4年後期		集中講義

共通科目群(3学科共通)

時間割コード	授 業 科 目 名	教職 科目	担当者 (非常勤)	○ は 必 修 単 位 数	配当年次	週コマ数	備 考
11136101	フランス語入門AⅠa		(木下)	1	1年前期	1	
11136102	フランス語入門AⅠb		(木下)	1	1年前期	1	
11136201	フランス語入門AⅡa		(木下)	1	1年後期	1	
11136202	フランス語入門AⅡb		(木下)	1	1年後期	1	
11136301	フランス語入門B		砂野	2	1年前期	2	
11136401	フランス語基礎		砂野	2	1年後期	2	
11136501	フランス語発展Ⅰ		砂野	1	2年前期	1	
11136601	フランス語発展Ⅱ		砂野	1	2年後期	1	
11137101	ドイツ語入門AⅠa		(舘石)	1	1年前期	1	
11137102	ドイツ語入門AⅠb		(Reibert)	1	1年前期	1	
11137201	ドイツ語入門AⅡa		(舘石)	1	1年後期	1	
11137202	ドイツ語入門AⅡb		(Reibert)	1	1年後期	1	
11137301	ドイツ語入門B		(Bauer)	2	1年前期	2	
11137401	ドイツ語基礎		(Bauer)	2	1年後期	2	
11137501	ドイツ語発展Ⅰ		(Reibert)	1	2年前期	1	
11137601	ドイツ語発展Ⅱ		(Reibert)	1	2年後期	1	
11138101	中国語入門AⅠa		(趙)	1	1年前期	1	
11138102	中国語入門AⅠb		(趙)	1	1年前期	1	
11138103	中国語入門AⅠc		(馮)	1	1年前期	1	
11138201	中国語入門AⅡa		(趙)	1	1年後期	1	
11138202	中国語入門AⅡb		(趙)	1	1年後期	1	
11138203	中国語入門AⅡc		(馮)	1	1年後期	1	
11138301	中国語入門B a		山田	2	1年前期	2	
11138302	中国語入門B b		(岡村)	2	1年前期	2	
11138401	中国語基礎 a		山田	2	1年後期	2	
11138402	中国語基礎 b		(岡村)	2	1年後期	2	
11138501	中国語発展Ⅰ a		山田	1	2年前期	1	
11138502	中国語発展Ⅰ b		(岡村)	1	2年前期	1	
11138601	中国語発展Ⅱ a		山田	1	2年後期	1	
11138602	中国語発展Ⅱ b		(岡村)	1	2年後期	1	
11139101	韓国語入門AⅠa		(矢野)	1	1年前期	1	
11139102	韓国語入門AⅠb		(金)	1	1年前期	1	
11139201	韓国語入門AⅡa		(矢野)	1	1年後期	1	
11139202	韓国語入門AⅡb		(金)	1	1年後期	1	
11139301	韓国語入門B a		崔	2	1年前期	2	
11139302	韓国語入門B b		(田)	2	1年前期	2	
11139401	韓国語基礎 a		崔	2	1年後期	2	
11139402	韓国語基礎 b		(田)	2	1年後期	2	
11139501	韓国語発展Ⅰ		崔	1	2年前期	1	
11139601	韓国語発展Ⅱ		崔	1	2年後期	1	

共通科目群(3学科共通)

時間割コード	授業科目名	教職科目	担当者(非常勤)	○は必修 単位数	配当年次	週コマ数	備考
◇健康スポーツ科学							
11510401	健康の科学(文・環)	教職	青木	②	1年前期	1	2016年度以前入学者は健康とスポーツ科学(文・環)
11510201	生涯スポーツ実習Ⅰ(3限クラス)	教職	松本・他	1	1年前期	1	
11510202	生涯スポーツ実習Ⅰ(4限クラス)	教職	松本・他	1	1年前期	1	
11510301	生涯スポーツ実習Ⅱ(3限クラス)	教職	松本・他	1	1年後期	1	
11510302	生涯スポーツ実習Ⅱ(4限クラス)	教職	松本・他	1	1年後期	1	
◇情報処理							
13100141	情報処理入門(資)	教職	(川田)	②	1年前期	1	
13100142	情報処理入門(居)		小菌	②	1年前期	1	
13100143	情報処理入門(食)	教職	(神田)	②	1年前期	1	
◇キャリアデザイン							
13310141	プレゼミナール		担当教員	①	1年前期	1	インターンシップは自由科目とし、その単位は卒業要件には含めない。インターンシップは1年次後期から3年次後期の間で履修登録できる。インターンシップは派遣終了後に履修登録を行う。(詳細は掲示する)
48602141	キャリア形成論		李	①	1年前期	1	
48601141	インターンシップ1(春季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
48601241	インターンシップ2(春季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
48601341	インターンシップ3(春季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
48601441	インターンシップ4(春季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
48601541	インターンシップ5(春季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
48601641	インターンシップ6(春季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
48601741	インターンシップ7(春季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
48601142	インターンシップ1(夏季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
48601242	インターンシップ2(夏季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
48601342	インターンシップ3(夏季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
48601442	インターンシップ4(夏季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
48601542	インターンシップ5(夏季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
48601642	インターンシップ6(夏季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
48601742	インターンシップ7(夏季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
◇地域理解とリーダーシップ							
12800101	もやいすと(地域)ジュニア育成		津曲	2	1～4年後期	1	いずれか1科目選択必修
12800201	もやいすと(防災)ジュニア育成		堤・丸山	2	1～4年後期	1	
12800701	もやいすとシニア育成		津曲	2	2～4年後期	1	
12800401	減災リテラシー入門		澤田	2	1～4年前期	1	
12312401	新熊本学:ことば、表現、歴史		小川・他	2	1～4年後期	1	
12711501	新熊本学:熊本の生活と環境		松添・他	2	1～4年後期	1	
12800501	新熊本学:地域のビジネスリーダーに学ぶ		森・黄	2	1～4年前期	1	
12800601	新熊本学:地域社会と協働		澤田・他	2	1～4年後期	1	

共通科目群(3学科共通)

時間割コード	授業科目名	教職科目	担当者(非常勤)	○は必修 単位数	配当年次	週コマ数	備考	
◆教養科目								
◇人間と文化								
12310101	哲学の基礎		平岡	2	1～4年前期	1		
12320101	科学の思想		平岡	2	1～4年後期	1		
12310401	人間と宗教		(源)	2	1～4年前期	1		
12310701	心理学入門 a		(菊池)	2	1～4年前期	1		
12310702	心理学入門 b		石井	2	1～4年前期	1		
12311801	人権と文化	教職	難波	2	1～4年前期	1		
12310801	人間と教育	教職	石村	2	1～4年後期	1		
12312201	現代世界と歴史		大島	2	1～4年後期	1		
12311201	近代日本の歩み		大島	2	1～4年前期	1		
12311401	現代の文学		難波	2	1～4年前期	1		
12311701	人間と芸術		(永田)	2	1～4年後期	1		
12320201	西洋文化圏の理解		(内田)	2	1～4年前期	1		
12500901	東アジア文化圏の理解		崔	2	1～4年後期	1		
◇自然と環境								
12710301	環境と生物圏		堤	2	1～4年後期	1		※九州電力協力講座
12710501	エネルギーと社会		(宮川)	2	1～4年前期	1		
12710801	海の生物資源		一宮	2	1～4年後期	1		
12710901	人間と植物生産		松添	2	1～4年前期	1		
12711001	暮らしの中の化学技術		石橋	2	1～4年前期	1		
12711101	環境と生きる		小林	2	1～4年後期	1		
12720101	住まいと地域環境		柴田・他	2	1～4年前期	1		
12711301	食と健康		友寄・他	2	1～4年後期	1		
◇社会と世界								
12500101	現代の国際関係		高埜	2	1～4年前期	1	※NTT西日本協力講座 ※熊本日日新聞社協力講座 ※肥後銀行・地域経済総合研究所協力講座	
12500201	世界の経済		松尾	2	1～4年前期	1		
12910101	国際協力論		(木下)	2	1～4年前期	1		
12900101	生活と憲法	教職	佐藤	2	1～4年後期	1		
12900201	現代社会と政治		(松岡)	2	1～4年前期	1		
12900301	現代社会と法律		(良永)	2	1～4年後期	1		
12900701	情報と社会		(田中(靖))	2	1～4年前期	1		
12900801	マスメディア論		(野口)	2	1～4年後期	1		
12901001	現代社会と企業		(溜瀨)	2	1～4年後期	1		

外国人留学生の特別科目(外国人留学生に対してのみ開講)

時間割コード	授業科目名	担当者(非常勤)	○は必修 単位数	配当年次	週コマ数	備考
(日本語)						
11200101	日本語A-1	馬場・(島本)	2	1～2年前期	2	本年度休講
11200201	日本語A-2	(島本)	2	1～2年後期	2	
休講	日本語B-1		2	1～2年前期	2	
休講	日本語B-2		2	1～2年後期	2	
(日本事情に関する科目)						
12200101	日本事情I	文学部教員	2	1～4年前期	1	本年度休講
休講	日本事情II	環境共生学部教員	2	1～4年後期	1	
12200301	日本事情III	総合管理学部教員	2	1～4年後期	1	

専門科目群 環境資源学科

	時間割コード	授 業 科 目 名	教 職	担当者 (非常勤)	○は 必修 単 位 数	配当年次	週コマ数	備 考
学部共通科目	導入科目	34109001		阿草	②	1年前期	1	
		34110001		堤・井上	②	1年前期	1	
		34111001		北原・他	②	1年前期	1	
		34107001		松崎・他	②	1年前期	1	
		34108001		学部全教員	①	1年後期	1	
	34181001		学部全教員	①	3年後期	1		
	13100541		一宮・他	①	1年後期	2		
学科専門科目	基礎科目	34301501	教	小森田	2	1年前期	1	選択必修 A
		34302501	教	井上	2	1年後期	1	選択必修 A
		34303501	教	一宮・小森田	1	1年前期	2	選択必修 B
		34304501	教	小林	2	1年前期	1	選択必修 A
		34305501	教	阿草	2	1年後期	1	選択必修 A
		34307501	教	小林	1	1年後期	2	選択必修 B
		34308301	教	張	2	1年前期	1	選択必修 A
		34309301	教	張	2	1年後期	1	選択必修 A
		34310101	教	張	1	2年前期	2	選択必修 B
		34311101	教	(下山)	2	3年前期	1	選択必修 A 集中講義
		34312101	教	(下山)	2	3年後期	1	選択必修 A 集中講義
		34313101	教	(市原)	1	3年前期	2	選択必修 B 集中実験
		34314101	教	(市原)	1	3年後期	2	選択必修 B 集中実験
		34315301		(犬塚)	2	1年前期	1	選択必修 A
		34316301		(犬塚)	2	1年後期	1	選択必修 A
		34317501		(中嶋)	2	2年前期	1	選択必修 A
		34318501		(中嶋)	1	2年後期	2	選択必修 B
		34507101		井上	1	2年前期	2	選択必修 B
		34319701		堤	1	3年後期	2	選択必修 B

(注1) 選択必修Aの科目群から8科目16単位以上を、選択必修Bの科目群から6科目6単位以上をそれぞれ修得してください。

(注2) 授業科目名右の欄に「教」と記載されているものは教職科目(中学校理科・高等学校理科)です。

専門科目群 環境資源学科

	時間割コード	授 業 科 目 名	教職	担当者 (非常勤)	○ は 必 修 単 位 数	配当年次	週コマ数	備 考		
学科専門科目	生態関係科目	34123801		沿岸環境保全論		小森田	2	3年前期	1	隔週開講 集中講義(実習)
		34501301	海洋生態学	教	堤	②	2年後期	1		
		34502101	プランクトン学		一宮	2	2年後期	1		
		34503101	海藻学		(川口)	2	2年後期	1		
		34504301	沿岸域環境アセスメント実習	教	堤・小森田	①	2年後期	2		
		34505301	森林生態学	教	井上	②	2年前期	1		
		34506301	森林環境アセスメント実習	教	井上	①	2年前期	2		
		34507301	森林資源学		井上	2	2年後期	1		
	生物資源関係科目	34532401	海洋微生物学	教	(和田)	2	2年前期	1	集中講義	
		34532501	水産環境学	教	一宮	②	2年前期	1	隔週開講 集中講義(実習)	
		34533101	魚類環境生理学		(竹内)	2	3年前期	1		
		34534501	水産環境アセスメント実習		一宮・小森田	①	3年前期	2		
		34535701	植物食資源学		松添	2	2年前期	1	隔週開講 集中講義(実習)	
		34536501	植物生産学		松添	②	2年後期	1		
		34537501	植物生産環境アセスメント実習		松添	①	3年前期	2		
		34538502	食品化学(資)		白土	2	3年前期	1		
		34539503	食品学総論(資)		白土	2	2年後期	1		
		34540501	食資源開発学		松崎	2	2年前期	1		
	物質環境関係科目	34561401	水環境科学		阿草	②	3年前期	1		集中講義
		34561501	環境分析化学	教	小林	②	2年前期	1		
		34562101	環境分析化学実験Ⅰ	教	小林	①	2年後期	2		
		34563101	環境分析化学実験Ⅱ	教	阿草	①	3年前期	2		
		34163801	環境衛生学		有菌・石橋	2	2年後期	1		
		34564501	生物濃縮論		(田辺)	2	3年後期	1		
		34565501	食品分析学		白土	2	3年前期	1		
		34566501	食品安全性学		有菌	2	3年後期	1		
		34567101	環境素材学		石橋	②	3年前期	1		
		34567201	高分子化学	教	石橋	2	2年前期	1		
		34568101	高分子化学実験	教	石橋	①	2年後期	2		
		34569701	大気環境学	教	張	②	3年前期	1		
		34570101	大気環境学実験	教	張	①	2年後期	2		
		34571301	エネルギー環境学	教	(松本・上野)	2	3年前期	1	隔週開講	
34572101	環境計量演習		(小島)	1	3年後期	1				
環境計画関係科目	345601701	環境経済学		井田	2	2年後期	1	隔週開講		
	34602701	環境関連法規		(吉田)	2	3年前期	1			
	34605701	農山村域計画学		柴田	2	3年前期	1			
	34607301	地域景観計画学		柴田	2	3年後期	1			
	34608301	都市居住政策学		鄭	2	3年後期	1			
	34609301	都市計画		鄭	2	3年前期	1			
卒業研究	34573101	Science English I		Morrow	②	3年前期	1	4年次配当		
	34573201	Science English II		Morrow	②	3年後期	1			
卒業研究	48100041	卒業論文		学部全教員	⑧	4年次		4年次配当		

(注1) 授業科目名右の欄に「教」と記載されているものは教職科目(中学校理科・高等学校理科)です。

専門科目群 居住環境学科

		時間割コード	授 業 科 目 名	担当者 (非常勤)	○ は 必 修 単 位 数	配当年次	週コマ数	備 考	
学部共通科目	導入科目	34109001	現代生活と環境問題		阿草	②	1年前期	1	
		34110001	地球環境を考える		堤・井上	②	1年前期	1	
		34111001	居住環境を創る		北原・他	②	1年前期	1	
		34107001	食と環境		松崎・他	②	1年前期	1	
		34108001	フィールドワーク		学部全教員	①	1年後期	1	
	34181001	環境共生総合演習		学部全教員	①	3年後期	1		
	13100541	情報処理実習(居)		(宮里)	①	1年後期	2		
学科専門科目	基礎科目	34321201	図学	⑩ ヘ	(北岡)	②	1年前期	1	
		34676201	CAD実習I	① イ	(本間)	①	2年後期	2	
		34670201	居住環境デザイン実習I	⑩ ヘ	佐藤	②	1年前期	3	
		34671201	居住環境デザイン実習II	⑩ ヘ	(小嶋)	②	1年後期	3	
		34315301	数学I		(犬塚)	2	1年前期	1	
		34316301	数学II		(犬塚)	2	1年後期	1	
		34308302	物理学I(居)		張	2	1年前期	1	
		34309302	物理学II(居)		張	2	1年後期	1	
		34319701	応用情報処理実習		堤	1	3年後期	2	
	農村・都市環境関係科目	34605701	農山村域計画学		柴田	2	3年前期	1	
		34141801	比較都市文化論	⑩ ヘ	鄭	2	2年前期	1	
		34607301	地域景観計画学		柴田	2	3年後期	1	
		34608301	都市居住政策学	⑩ ヘ	鄭	2	3年後期	1	
		34609301	都市計画	⑩ ヘ	鄭	②	3年前期	1	
		居住空間関係科目	34662201	住空間計画学	② □	高橋	②	2年前期	1
			34143801	比較住文化論	② □	高橋	2	2年後期	1
			34663201	インテリアデザイン論	⑩ ヘ	(阪本)	2	2年後期	1
	34664201		インテリアデザイン実習	⑩ ヘ	(阪本)	2	3年前期	3	
	34145801		福祉住環境原論	② □	佐藤	②	3年後期	1	
	34667201		建築計画学	② □	佐藤	②	2年後期	1	
	34669201		木質デザイン論	② □	(梅田)	②	3年前期	1	
	34668201		建築史	② □	(内丸)	2	1年後期	1	
	環境調整設備関係科目	34708201	建築環境工学I	③ □	辻原	②	2年前期	1	
		34709201	建築環境工学II	③ □	辻原	②	2年後期	1	
		34703201	環境設備システム学	④ □	田中	②	3年前期	1	
34704201		環境設備システム学演習	④ □	田中・辻原	1	3年前期	1		
34710201		環境調整工学	⑩ ヘ	辻原・田中	2	3年後期	1		
34706201		居住環境調整工学実験	③ □	辻原・田中	1	3年後期	2		
34707201		環境設備学	③ □	田中	②	2年後期	1		

(注) 授業科目名欄の①～⑩は一級建築士指定科目。イ～へは二級建築士指定科目。
 建築士免許については「各種免許の取得について」12-2 一級建築士・二級建築士についてを参照のこと。

専門科目群 居住環境学科

	時間割コード	授 業 科 目 名	担当者 (非常勤)	○ は 必 修 単 位 数	配当年次	週コマ数	備 考
構造・材料関係科目	34731201	建築構法	⑥ ハ 北原	②	1年後期	1	
	34681201	建築構造の基礎	⑤ ハ 北原	②	1年後期	1	
	34733201	木質構造学	⑥ ハ 北原	②	2年前期	1	
	34742201	静定構造力学	⑤ ハ 李	②	2年前期	1	
	34743201	静定構造力学演習	⑤ ハ 李	①	2年前期	1	
	34744201	不静定構造力学	⑤ ハ 李	2	2年後期	1	
	34745201	不静定構造力学演習	⑤ ハ 李	1	2年後期	1	
	34736201	居住空間材料学	⑦ ハ 北原	②	2年後期	1	
	34746201	鉄筋コンクリート構造学	⑥ ハ 李	2	3年前期	1	
	34747201	鉄骨構造学	⑥ ハ (岡部)	2	3年後期	1	
	34748201	居住空間構造・材料実験	⑦ ハ 北原	1	3年前期	2	
地域計画関係科目	34144801	地域計画論	柴田	②	2年後期	1	
	34505301	森林生態学	井上	2	2年前期	1	
	34761201	地方自治論	澤田	2	3年後期	1	総管の「地方自治の基礎」と同時開講
	34501301	海洋生態学	堤	2	2年後期	1	
	34569701	大気環境学	張	2	3年前期	1	
	34602701	環境関連法規	(植木)	2	3年前期	1	
	34603301	公共政策論	井寺	2	4年後期	1	総管の「公共政策論」と同時開講
34601701	環境経済学	井田	2	3年後期	1		
全体共通	34672201	居住環境デザイン実習Ⅲ	① イ 高橋	②	2年前期	3	
	34673201	居住環境デザイン実習Ⅳ	① イ 佐藤・他	②	2年後期	3	
	34678201	木質材料活用論	北原	2	2年前期	1	
	34677201	CAD実習Ⅱ	① イ (本間)	1	3年前期	2	
	34674201	居住環境デザイン実習Ⅴ	⑩ ヘ 柴田・他	②	3年前期	3	
	34675201	居住環境デザイン実習Ⅵ	① イ 高橋・他	②	3年後期	3	
	34679201	建築施工学	⑧ ニ (嘉戸)	②	3年後期	1	
	34611301	環境防災・安全工学	⑩ ヘ 北原	2	4年前期	1	
34680201	建築法規	⑨ ホ (堀田)	②	4年前期	1	隔週開講	
卒業研究	48100042	卒業論文	学部全教員	⑧	4年次		4年次配当

(注) 授業科目名欄の①～⑩は一級建築士科目。イ～ヘは二級建築士科目。
建築士免許については「各種免許の取得について」12-2 一級建築士・二級建築士についてを参照のこと。

専門科目群 食健康科学科

	時間割コード	授 業 科 目 名	担当者 (非常勤)	○は必修 単位数	配当年次	週コマ数	備 考		
学部共通科目	導入科目	34109001	現代生活と環境問題		阿草	②	1年前期	1	
		34110001	地球環境を考える		堤・井上	②	1年前期	1	
		34111001	居住環境を創る	家	北原・他	②	1年前期	1	
		34107001	食と環境		松崎・他	②	1年前期	1	
		34108001	フィールドワーク	⊗	学部全教員	①	1年後期	1	
		34181001	環境共生総合演習		学部全教員	①	3年後期	1	
	13100543	情報処理実習(食)	家	(福田)	①	1年後期	2		
基礎科目	34301502	生物学Ⅰ(食)	理	(高橋)	2	1年前期	1	基礎科目中の選択必修科目から8単位以上を修得すること。	
	34302502	生物学Ⅱ(食)	理	(矢原)	2	1年後期	1		
	34303502	生物学実験(食)	理	友寄・他	①	1年後期	2		
	34304502	基礎化学(食)	理	有菌	2	1年前期	1		
	34307502	化学実験(食)	理	松崎・他	①	1年前期	2		
	34305502	有機化学(食)	食 理	有菌	2	1年前期	1		
	34324402	生命有機化学	食 理	松崎	②	1年後期	1		
	34325402	生化学	食 栄 理	南	2	1年後期	1		
	34326401	生化学実験	食 ⊗ 理	友寄	1	3年後期	2		
	34308303	物理学Ⅰ(食)	理	張	2	1年前期	1		
	34309303	物理学Ⅱ(食)	理	張	2	1年後期	1		
	34310102	物理学実験(食)	理	張	1	2年前期	2		
	34317501	統計学		(中嶋(康))	2	2年前期	1		
	34318501	統計学演習		(中嶋(康))	1	2年後期	2		
34319701	応用情報処理実習	家	堤・小森田	1	3年後期	2			
学科専門科目	食環境関係科目	34163801	環境衛生学	食	有菌・石橋	2	2年後期	1	集中講義 集中講義
		34162801	食文化論		(沼田)	2	2年前期	1	
		34539502	食品学総論(食)	食 栄 家	白土	2	1年後期	1	
		34538501	食品化学	食 理	白土	2	2年前期	1	
		34831401	食品学各論	食 栄 家	松崎	2	2年後期	1	
		34832401	食品学実験	食 栄 理	白土	1	2年後期	2	
		34565501	食品分析学	食 理	白土	2	3年前期	1	
		34536701	植物食資源学	食	松添	2	2年前期	1	
		34535501	植物生産学		松添	2	2年後期	1	
		34540501	食資源開発学	食	松崎	2	2年前期	1	
	34834401	食品微生物学	食 理	松崎	2	3年前期	1		
	34541501	食品バイオテクノロジー	食 ⊗ 家	松崎	2	3年後期	1		
	34835401	食品バイオテクノロジー実験	食 ⊗ 理	松崎	1	3年後期	2		
	34836401	調理学	栄 家	中嶋(名)	2	1年前期	1		
	34838401	調理学実習Ⅰ	栄 家	中嶋(名)	1	1年後期	2		
	34839401	調理学実習Ⅱ	栄 家	中嶋(名)	1	2年前期	2		
	34840402	食品加工学	食 ⊗ 家	白土	2	2年後期	1		
	34841401	食品加工学実験	食 栄 家	白土	1	3年前期	2		
	34842401	食品保存学	食 家	(藤田)	2	3年後期	1		
	34843402	食品製造学	食	(井倉)	2	2年後期	1		
34844402	食品衛生学	食 栄 家	有菌	2	2年後期	1			
34845401	食品衛生学実験	食 栄	有菌	1	3年前期	2			
34866501	食品安全性学	食 家	有菌	2	3年後期	1			

(注1) 授業科目名覧右側に記載の「食」は食品衛生監視員・管理者必修 ⊗ は食品衛生監視員・管理者選択必修
 (注2) 授業科目名覧右側に記載の「栄」は栄養士・管理栄養士必修 ⊗ は管理栄養士必修
 (注3) 授業科目名覧右側に記載の「理」は理科の教職科目、「家」は家庭科の教職科目

専門科目群 食健康科学科

	時間割コード	授 業 科 目 名	担当者 (非常勤)	○は必修 単位数	配当年次	週コマ数	備 考	
学科専門科目	健康環境関係科目 展開科目	34166801	健康管理学	栄 家 (草野)	2	3年前期	1	集中講義
		34164801	環境生理学	◎ 松本	2	2年前期	1	
		34165801	環境生理学実習	◎ 松本	1	2年後期	2	
		34861401	栄養運動生理学	栄 理 松本・吉村	2	3年前期	1	
		35860401	栄養運動生理学実習	栄 松本・吉村	1	3年後期	2	
		34862402	解剖生理学	食 栄 理 下田	2	1年前期	1	
		34863401	解剖生理学実験	食 栄 理 下田	1	2年後期	2	
		34864401	発育発達運動学	◎ 家 青木	2	2年後期	1	
		34865401	栄養学総論	食 栄 家 友寄	2	2年前期	1	
		34866401	栄養学各論	食 栄 家 友寄	2	2年後期	1	
		34867401	栄養学実験	食 栄 友寄	1	2年前期	2	
		34868401	栄養生化学	食 ◎ 家 南	2	2年前期	1	
		34880501	栄養機能性学	食 ◎ 友寄	2	3年前期	1	
		34881402	栄養教育論	栄 大下・坂本	2	1年後期	1	
		34882402	栄養指導論	栄 大下・坂本	2	2年後期	1	
		35861401	ライフステージ栄養学演習	◎ 大下	2	3年後期	1	
		34883401	栄養教育論実習	大下・坂本	1	2年前期	2	
		35878401	給食経営管理学	中嶋(名)	2	2年後期	1	
		35863401	福祉・介護食生活支援論	◎ (山下(茂))	2	3年前期	1	
		35864401	福祉・介護食実習	栄 (山下(茂))	1	3年後期	2	
		34885401	給食管理実習	栄 中嶋(名)	1	3年前期	2	
		34886401	給食経営管理臨地実習	栄 中嶋(名)	1	3年後期	1	
		34876401	公衆栄養学	栄 吉村	2	3年後期	1	
		35865401	栄養情報管理学	◎ 吉村	2	3年前期	1	
		35866401	生活習慣病予防学	◎ 下田	2	3年後期	1	
		35867402	地域栄養アセスメント実習	栄 吉村	1	4年前期	2	
		35868401	公衆栄養学臨地実習	◎ 吉村	1	4年前期	2	
		35869401	臨床医学概論	栄 下田	2	2年後期	1	
		35870401	疾病論	栄 下田	2	3年前期	1	
		35871401	生体防御学	◎ 下田	2	2年前期	1	
		35872401	臨床栄養アセスメント	◎ 南	2	2年後期	1	
		34887401	臨床代謝栄養学	◎ 家 南	2	3年後期	1	
		35873401	臨床栄養治療学	栄 南	2	3年前期	1	
		35874401	臨床外科栄養学	◎ (横溝)	2	4年前期	1	
		35875401	臨床栄養学実習	◎ 南	1	3年前期	2	
34888401	臨床治療食実習	栄 (西本)	1	3年前期	2			
34879401	公衆衛生学	食 栄 有菌	2	3年後期	1			
35876401	臨床栄養学臨地実習	◎ 南	2	3年後期	1			
35877401	実践栄養学総合演習	◎ 南・他	4	4年前期	2			
関連科目	34903901	被服学概論	家 (篠塚)	2	1年前期	1	17年度以降入学	
	34901901	生活経営学概論	家 (川口)	2	1年前期	1		
	34907901	育児学	家 (江藤・他)	2	1年後期	1		
	34902901	家族関係論	家 (八幡)	2	2年前期	1		
	34904901	被服構成学実習	家 (岡崎)	2	2年前期・後期	2		
	34906901	家庭機械・電気 (15年度以前)	家 (藤井)	2	4年後期	1		
	34906902	家庭機械・電気 (16年度以降)	家 (藤井)	2	1年後期	1		
	34910101	学校栄養教育論	◎ (横田)	2	3年前期	1		
	34910201	食教育実践論	◎ (横田)	2	3年後期	1		
		管理栄養士特別演習		2	4年後期	1		
卒業研究	48100043	卒業論文	学部全教員	⑧	4年次		4年次配当	

- (注1) 授業科目名覧右側に記載の「食」は食品衛生監視員・管理者必修 ◎は食品衛生監視員・管理者選択必修
(注2) 授業科目名覧右側に記載の「栄」は栄養士・管理栄養士必修 ◎は管理栄養士必修
(注3) 授業科目名覧右側に記載の「理」は理科の教職科目、「家」は家庭科の教職科目、「栄」は栄養教諭の教職科目
(注4) 理科の教職科目は、これらの科目の他に環境資源学科に開設の「大気環境学」「エネルギー環境学」「大気環境学実験」「地学I・II」「地学実験I・II」も含まれます。
(注5) 家庭科の教職科目は、これらの科目の他に居住環境学科に開設の「環境設備システム学」「比較都市文化論」「比較住文化論」「地域計画論」「福祉住環境原論」も含まれます。

教職に関する科目(環境資源学科及び食健康科学科)

時間割コード	授業科目名	担当者 (非常勤)	○ は 単 位 数 必 修	配当年次	週コマ数	備考
940701	教職論	(徳島)	②	2年前期	1	
930102	教育原理	石村	②	2年後期	1	
940802	教育心理学Ⅰ	石井	②	2年後期	1	
940901	教育心理学Ⅱ (障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)	(肥後)	①	2年後期	1	集中講義
930301	教育社会学	(中園)	2	3年後期	1	} いずれか1科目選択必修
940101	教育制度論	(中園)	2	3年前期	1	
941001	教育課程論	石村	②	3年前期	1	
933101	理科教育法Ⅰ	堤	②	3年前期	1	} 理科のみ必修 Ⅱは集中講義 Ⅲは隔週開講
933201	理科教育法Ⅱ	(宮尾)	②	3年後期	1	
933301	理科教育法Ⅲ	(八田)	②	4年前期	1	
933401	理科教育法Ⅳ	堤	2	4年後期	1	} 家庭科のみ必修
934101	家庭科教育法Ⅰ	(宮瀬)	②	3年前期	1	
934201	家庭科教育法Ⅱ	(宮瀬)	②	3年後期	1	
934301	家庭科教育法Ⅲ	(米村)	②	4年前期	1	
934401	家庭科教育法Ⅳ	(米村)	2	4年後期	1	
941101	道德教育の理論と方法	(佐澤)	②	2年前期	1	中学校一種免許のみ必修
941201	特別活動の理論と方法	(後藤)	②	2年後期	1	
930601	教育の方法と技術	宮園	②	2年後期	1	
940401	生徒指導の理論と方法	石井	②	3年前期	1	2016年度以前入学者は生徒指導の理論及び方法
941401	教育相談の理論と方法(教科)	石井	②	3年後期	1	理科・家庭科のみ必修
941701	教育相談の理論と方法(栄養)	石井	②	3年後期	1	栄養教諭のみ必修
941501	教育実習指導	石村・他	②	4年前期	1	
939201	教育実習(中高)	石村・他	④	4年次	※	4年次に教育実習 ※3年次における希望調査とは別に、改めて履修登録をする必要がある ので、注意すること。
940001	教育実習(高)	石村・他	②	4年次	※	4年次に教育実習 ※3年次における希望調査とは別に、改めて履修登録をする必要がある ので、注意すること。
940201	栄養教育実習	石村・他	①	4年次	※	4年次に教育実習 ※3年次における希望調査とは別に、改めて履修登録をする必要がある ので、注意すること。
941601	栄養教育実習指導	石村・他	①	4年前期	1	
941901	教職実践演習(中・高)	石村・他	②	4年後期	1	
942001	教職実践演習(栄養)	石村・他	②	4年後期	1	

※家庭科教員免許に関する科目(食健康科学科)

時間割コード	授業科目名	担当者 (非常勤)	○ は 単 位 数 必 修	配当年次	週コマ数	備考
34901901	生活経営学概論 (家庭経営学を含む。)	(川口)	②	1年前期	1	
34902901	家族関係論	(八幡)	②	2年前期	1	
34903901	被服学概論	(篠塚)	②	1年前期	1	
34904901	被服構成学実習	(岡崎)	②	2年前期・後期	2	
34906901	家庭機械・電気(15年度以前)	(藤井)	②	4年後期	1	
34906902	家庭機械・電気(16年度以降)	(藤井)	②	1年後期	1	
34907901	育児学 (実習及び家庭看護を含む。)	(江藤・他)	②	1年後期	1	

※栄養教諭免許に関する科目(食健康科学科)

時間割コード	授業科目名	担当者 (非常勤)	○ は 単 位 数 必 修	配当年次	週コマ数	備考
34910101	学校栄養教育論	(横田)	②	3年前期	1	
34910201	食教育実践論	(横田)	②	3年後期	1	

12 各種免許の取得について

12-1 教育職員免許状の取得について

本学は、「総合性への志向」、「地域性の重視」、「国際性の推進」を理念として掲げており、人文、自然、社会の学問分野を包括する総合的な知識の形成を図り、地域社会が当面する諸問題を分析解決するとともに国際社会の発展に寄与できる、創造力豊かな人材の育成を行っています。以上に基づき、豊かな教養と総合的な知識を十分に生かし、幅広い視点から物事を冷静に分析し考察する能力を身に付けるとともに、確かな行動力でもって実践的に地域の教育に貢献できる教員を養成しています。

○環境資源学科

物理・化学・生物等の理科に関する基礎的科目とともに学科で展開されている環境科学分野の科目を学び、それらを基に学校教育現場において自然科学への興味関心を高める創造的な実験や観察などの教育指導ができる人材を養成します。さらに、実証的な実習や実験科目を通して知識の応用能力を養い、幅広い教養と高い専門性を身につけた人間性豊かな人材を養成します。

○食健康科学科

教職課程(理科)においては、物理・化学・生物等の科目とともに学部で展開されている環境科学分野の科目を学び、それらを基に学校教育現場において自然科学への興味関心を高める創造的な実験や観察などの教育指導ができる人材を養成します。また理科教育法では主として中学校、高等学校の教職経験者を担当者に充て、実践的な教育スキルの向上を目指しています。

教職課程(家庭科)においては、食と健康科学分野の科目ならびに環境科学分野の科目を学び、自然や社会と共生した生活の実現と生活の質の向上などを視野に入れ、日常生活で遭遇する様々な問題に対して、その解決や指導の方策を教育指導できる資質や能力を持った人材を養成します。また家庭科教育法では高等学校の教職経験者を担当者に充て、実践的な教育スキルの向上を目指しています。

教職課程(栄養教諭)においては、学科で展開されている管理栄養士養成を基礎として、食健康科学分野の科目を学びます。それらを基に、食育、食の安全・安心、食と健康づくりなどに関する実践的教育指導のできる人材を育成します。栄養に係わる教育に関する科目においては、学校栄養職員など「食」に関する教育指導の経験者を担当者に充て、実践的な教育スキルの向上を目指しています。

各教育職員免許状を取得するには、それぞれの学科の卒業に必要な単位の他に、以下の2) 環境共生学部における教育職員免許状取得で修得すべき授業科目に示す科目の単位を修得し、都道府県教育委員会に各自で申請することが必要です。熊本県教育委員会への申請は、本学教職課程の単位を満たしている場合は教務入試課で一括して行います(ただし、栄養教諭一種免許状は除きます)。

1) 取得できる免許状の種類

環境共生学部	環境資源学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科
	食健康科学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科
		中学校教諭一種免許状	家庭科
		高等学校教諭一種免許状	家庭科
栄養教諭一種免許状 ※基礎資格として管理栄養士課程を修了し、栄養士免許を有することが必要			

2) 環境共生学部における教育職員免許状取得で修得すべき授業科目

修得すべき授業科目は、(1)教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目、(2)教職に関する科目、(3)教科に関する科目、(4)栄養に係る教育に関する科目、(5)教科又は教職に関する科目の5つに分類されています。次の表は、各免許状の取得に必要とされる科目名と単位数を示しています。数字は単位数で、数字を○で囲んである科目は、各免許種別の必修科目又は選択必修科目です。

(1) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

学 科	環境資源学科		食健康科学科				
	中学理科	高校理科	中学理科	高校理科	中学家庭	高校家庭	栄養教諭
健康の科学							
生涯スポーツ実習Ⅰ							
生涯スポーツ実習Ⅱ							
Basic English I							
Basic English II							
生活と憲法							
情報処理入門							

(2) 教職に関する科目

- 1 環境資源学科、食健康科学科については、「教職に関する科目」として修得した単位で必要最低単位数(中学理科35単位、高校理科31単位、中学家庭科35単位、高校家庭科31単位)を超えたものは、「(5)教科又は教職に関する科目」の単位とすることができます。
- 2 「道徳教育の理論と方法」は、中学校一種免許及び栄養教諭免許取得に際し必修ですが、高等学校一種免許の取得に際しては「教科又は教職に関する科目」として扱うことができます。
- 3 教育実習ならびに栄養教育実習を履修するには、「教職論」「教育原理」「教育心理学Ⅰ」「生徒指導の理論及び方法」のうち2科目以上を修得していなければなりません。さらに、栄養教諭を除き、4年次に進級するまでに各教科教育法Ⅰ及びⅡを修得していなければなりません。
なお、「教育実習指導」の履修状況に問題があり、実習を行うにふさわしくないと認められる場合には、「教育実習」を履修することはできません。

学 科		環境資源学科		食健康科学科				
		中学理科	高校理科	中学理科	高校理科	中学家庭	高校家庭	栄養教諭
免許状の種類		中学理科	高校理科	中学理科	高校理科	中学家庭	高校家庭	栄養教諭
教職の意義等に関する科目	教職論	②						
教育の基礎理論に関する科目	教育原理	②						
	教育心理学Ⅰ	②						
	教育心理学Ⅱ(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)	①						
	教育社会学 教育制度論	選択必修②(1科目以上を履修すること)						
教育課程及び指導法に関する科目	教育課程論	②						
	理科教育法Ⅰ	②	②	②	②	—	—	—
	理科教育法Ⅱ	②	②	②	②	—	—	—
	理科教育法Ⅲ	②	②	②	②	—	—	—
	理科教育法Ⅳ	2	2	2	2	—	—	—
	家庭科教育法Ⅰ	—	—	—	—	②	②	—
	家庭科教育法Ⅱ	—	—	—	—	②	②	—
	家庭科教育法Ⅲ	—	—	—	—	②	②	—
	家庭科教育法Ⅳ	—	—	—	—	2	2	—
	道徳教育の理論と方法	②	—	②	—	②	—	②
	特別活動の理論と方法	②						
教育の方法と技術	②							
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論と方法	②						
	教育相談の理論と方法(教科)	②						
	教育相談の理論と方法(栄養)	—	—	—	—	—	—	②
教育実習	教育実習指導	②						
	教育実習	④	②以上	④	②以上	④	②以上	—
栄養教育実習	栄養教育実習指導	—	—	—	—	—	—	①
	栄養教育実習	—	—	—	—	—	—	①
教職実践演習	教職実践演習(中・高)	②						
	教職実践演習(栄養)	—	—	—	—	—	—	②
必要最低単位数		35	31	35	31	35	31	25

(注1) 教育社会学及び教育制度論は選択必修です。もし、2科目履修した場合には、1科目は「教科又は教職に関する科目」の単位とすることができます。

(注2) 中学校の免許状を取得希望する学生は、法律により7日以上「介護等体験」が必要です。詳細については履修開始後に説明がありますので、指示に従ってください。

(3) 教科に関する科目

環境資源学科

- 1 理科の免許状取得のためには、次表の科目から合計20単位を修得し、さらに、免許法施行規則に定める区分等からそれぞれ1単位以上を修得しなければなりません。
- 2 ※は理科免許取得について必修です。
- 3 学部の必修科目は、免許状取得に関わらず卒業のために修得する必要があります。
- 4 20単位を超えて修得した場合には、後述「(5)教科又は教職に関する科目」の必要単位数(中学8単位、高校16単位)とすることができます。

① 中学校一種免許状

免許法施行規則に定める区分	該当授業科目(単位数)
物理学	※物理学Ⅰ(2) ※物理学Ⅱ(2) 大気環境学(2) エネルギー環境学(2)
化学	※基礎化学(2) ※環境分析化学(2) 高分子化学(2) 有機化学(2)
生物学	※生物学Ⅰ(2) ※生物学Ⅱ(2) 水産環境学(2) 海洋微生物学(2) 海洋生態学(2) 森林生態学(2)
地学	※地学Ⅰ(2) ※地学Ⅱ(2)
物理学実験(コンピュータ活用を含む。)	※物理学実験(1) ※大気環境学実験(1)
化学実験(コンピュータ活用を含む。) ※必修科目を含めて2単位以上履修	※化学実験(1) 環境分析化学実験Ⅰ(1) 環境分析化学実験Ⅱ(1) 高分子化学実験(1)
生物学実験(コンピュータ活用を含む。) ※必修科目を含めて2単位以上履修	※生物学実験(1) 森林環境アセスメント実習(1) 沿岸域環境アセスメント実習(1)
地学実験(コンピュータ活用を含む。)	※地学実験Ⅰ(1) ※地学実験Ⅱ(1)

② 高校一種免許状

免許法施行規則に定める区分	該当授業科目(単位数)
物理学、化学、生物学、地学	中学校一種免許状と同様
物理学実験 (コンピュータ活用を含む。)、 化学実験 (コンピュータ活用を含む。)、 生物学実験 (コンピュータ活用を含む。)、 地学実験 (コンピュータ活用を含む。)	※物理学実験(1) 大気環境学実験(1) ※化学実験(1) 環境分析化学実験Ⅰ(1) 環境分析化学実験Ⅱ(1) 高分子化学実験(1) ※生物学実験(1) 森林環境アセスメント実習(1) 沿岸域環境アセスメント実習(1) ※地学実験Ⅰ(1) 地学実験Ⅱ(1)

食健康科学科(理科免許)

- 1 理科の免許状取得のためには、次表の科目から合計20単位を修得し、さらに、免許法施行規則に定める区分等からそれぞれ1単位以上を修得しなければなりません。
- 2 ※は理科免許取得について必修です。
- 3 学部の必修科目は、免許状取得に関わらず卒業のために修得する必要があります。
- 4 20単位を超えて修得した場合には、後述「(5)教科又は教職に関する科目」の必要単位数(中学8単位、高校16単位)とすることができます。

① 中学校一種免許状

免許法施行規則に定める区分	該当授業科目(単位数)
物理学	※物理学Ⅰ(2) ※物理学Ⅱ(2)
化学	※基礎化学(2) ※食品化学(2) 生化学(2) 生命有機化学(2) 食品分析学(2)
生物学	※生物学Ⅰ(2) ※生物学Ⅱ(2) 解剖生理学(2) 栄養運動生理学(2) 食品微生物学(2)
地学	※地学Ⅰ(2)【環境資源学科開設】 ※地学Ⅱ(2)【環境資源学科開設】
物理学実験(コンピュータ活用を含む。)	※物理学実験(1) ※大気環境学実験(1)【環境資源学科開設】
化学実験(コンピュータ活用を含む。) ※必修科目を含めて2単位以上履修	※化学実験(1) 食品学実験(1) 生化学実験(1)
生物学実験(コンピュータ活用を含む。)	※生物学実験(1) ※解剖生理学実験(1) 食品バイオテクノロジー実験(1)
地学実験 (コンピュータ活用を含む。)	※地学実験Ⅰ(1)【環境資源学科開設】 ※地学実験Ⅱ(1)【環境資源学科開設】

② 高校一種免許状

免許法施行規則に定める区分	該当授業科目(単位数)
物理学、化学、生物学、地学	中学校一種免許状と同様
物理学実験(コンピュータ活用を含む。)、 化学実験(コンピュータ活用を含む。)、 生物学実験(コンピュータ活用を含む。)、 地学実験(コンピュータ活用を含む。)	※物理学実験(1) 大気環境学実験(1)【環境資源学科開設】 ※化学実験(1) 食品学実験(1) 生化学実験(1) ※生物学実験(1) 解剖生理学実験(1) 食品バイオテクノロジー実験(1) ※地学実験Ⅰ(1)【環境資源学科開設】 地学実験Ⅱ(1)【環境資源学科開設】

食健康科学科(家庭科免許)

- 1 家庭科の免許状取得のためには、次表の科目から合計20単位を修得し、さらに、免許法施行規則に定める区分等からそれぞれ1単位以上を修得しなければなりません。
- 2 ※は家庭科免許取得について必修です。
- 3 学部の必修科目は、免許状取得に関わらず卒業のために修得する必要があります。
- 4 20単位を超えて修得した場合には、後述「(5)教科又は教職に関する科目」の必要単位数(中学8単位、高校16単位)とすることができます。

免許法施行規則に定める区分	該当授業科目
家庭経営学 (家族関係学及び家庭経済学を含む。)	※生活経営学概論(家庭経済学を含む。)(2) ※家族関係論(2)
被服学 (被服製作実習を含む。)	※被服学概論(2) ※被服構成学実習(2)
食物学 (栄養学、食品学及び調理実習を含む。)	※食品学総論(2) 食品学各論(2) ※栄養学総論(2) 食品加工学(2) 食品加工学実験(1) ※調理学(2) ※調理学実習Ⅰ(1) ※調理学実習Ⅱ(1) 栄養生化学(2) 食品衛生学(2) 食品安全性学(2) 食品バイオテクノロジー(2) 栄養学各論(2) 食品保存学(2) 臨床代謝栄養学(2)
住居学 (製図を含む。【高等学校一種免許のみ】)	※居住環境を創る(2) 環境設備システム学(2)【居住環境学科開設】 比較都市文化論(2)【居住環境学科開設】 比較住文化論(2)【居住環境学科開設】 地域計画論(2)【居住環境学科開設】 福祉住環境原論(2)【居住環境学科開設】
保育学 (実習を含む。【中学校一種免許のみ】) (実習及び家庭看護を含む。【高等学校一種免許のみ】)	※育児学(実習及び家庭看護を含む。)(2) 発育発達運動学(2) 健康管理学(2)
家庭電気・機械及び情報処理 【高等学校一種免許のみ】	※家庭機械・電気(2) 応用情報処理実習(1) ※情報処理実習(1)

(4) 栄養に係る教育に関する科目

食健康科学科 (栄養教諭)

免許法施行規則に定める区分	該当授業科目
栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項	学校栄養教育論②
食生活に関する歴史的及び文化的事項	
幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項	食教育実践論②
食に関する指導の方法に関する事項	

- 注1 栄養教諭免許取得にあたっては、上記2科目とも必修です。
 注2 栄養教育実習を履修するには、上記2科目とも修得済みでなくてはなりません。
 注3 栄養教諭免許取得にあたっては、基礎資格として管理栄養士課程を修了し、栄養士免許を有することが必要です。

(5) 教科又は教職に関する科目

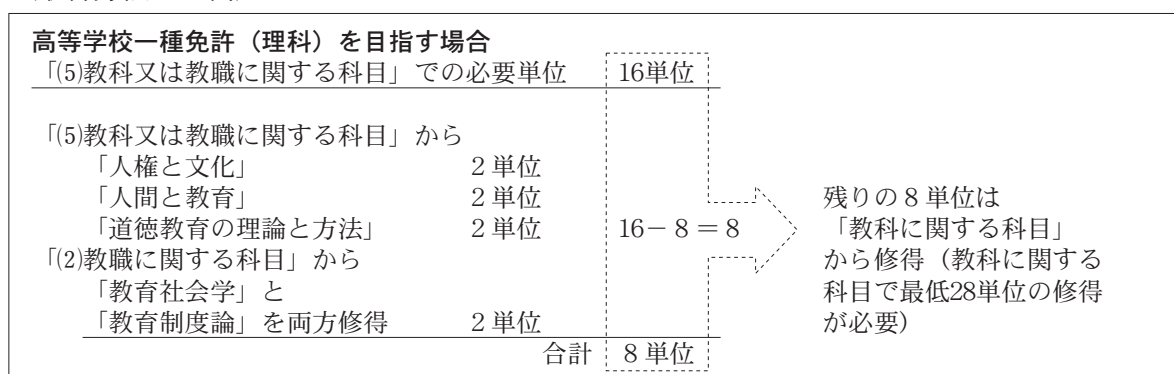
- 1 中学校(理科、家庭科)の免許状取得のためには、次表の「教科又は教職に関する科目」と「(2)教職に関する科目」さらに「(3)教科に関する科目」から合計8単位以上、高等学校(理科、家庭科)は合計16単位以上を修得しなければなりません。
 2 「教科又は教職に関する科目」として算入した科目の単位は、「(2)教職に関する科目」及び「(3)教科に関する科目」の単位に含めることはできません。

学 科	環境資源学科		食健康科学科				
	中学 理科	高校 理科	中学 理科	高校 理科	中学 家庭	高校 家庭	栄養 教諭
免許状の種類							
教科又は教職に関する科目	人権と文化		2				—
	人間と教育		2				—
	道徳教育の理論と方法	教職に関する科目	2	教職に関する科目	2	教職に関する科目	2

(注意事項)

- 1 道徳教育に関する科目について、
 「道徳教育の理論と方法」を高等学校一種免許の取得のために「教科又は教職に関する科目」として扱うことができます。
 2 他コースの「教科教育法」の単位は、「教科又は教職に関する科目」として扱うことはできません。
 例えば、「高校理科」の免許状取得のために「家庭科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の単位を「教科又は教職に関する科目」としてカウントすることはできません。

(取得方法の一例)



3) 教職課程履修カルテ

教職課程履修者の履修状況を把握し、教職指導を充実させるために、教職課程履修カルテを作成します。履修カルテ作成の手順と取り扱いについては次のとおりです。

- 新2年生オリエンテーション時：履修カルテの配布、活用方法の説明
 新3年生オリエンテーション時：2年次を振り返り、履修カルテを記入して提出・返却
 新4年生オリエンテーション時：3年次を振り返り、履修カルテを記入して提出・返却
 4年次「教育実習指導」：授業で履修カルテを使用
 4年次「教職実践演習」：授業で履修カルテを使用

12-2 一級建築士・二級建築士(居住環境学科)

<一級建築士とは>

- ・ 一級建築士は、国土交通大臣が行う試験に合格して得られる資格で、建築物の設計・監理、工事の指導監督などを行うには重要な資格です。
- ・ 一定規模以上の建築物の設計・監理は、一級建築士でなければできません。

<二級建築士とは>

- ・ 二級建築士とは、都道府県知事が行う試験に合格して得られる資格です。一級建築士と異なる点は、設計・監理ができる建築物の規模に制限があることです。二級建築士に合格後、さらに4年間の実務経験で、一級建築士の受験資格が得られます。

<建築士受験資格と履修すべき科目>

◆平成21年度以降入学者

一級建築士の場合、以下の指定科目の分類区分ごとに、必要単位数以上の単位を修得し、卒業後、実務経験2年で受験資格が得られます。

二級建築士の場合、以下の指定科目の分類区分ごとに、必要単位数以上の単位を修得し、卒業後、実務経験なしで受験資格が得られます。

指定科目の分類						指定科目として開講する科目		
一級			二級			授業科目名	単位数	必修選択の別
	開講単位	必要単位		開講単位	必要単位			
① 建築設計製図	8	7	イ 建築設計製図	8	5	CAD実習Ⅰ	1	必修
						CAD実習Ⅱ	1	選択
						居住環境デザイン実習Ⅲ	2	必修
						居住環境デザイン実習Ⅳ	2	必修
② 建築計画	12	7	ロ 建築計画、建築環境工学又は建築設備	22	7	比較住文化論	2	選択
						住空間計画学	2	必修
						福祉住環境原論	2	必修
						建築計画学	2	必修
③ 建築環境工学	7	2				木質デザイン論	2	必修
						建築史	2	選択
						建築環境工学Ⅰ	2	必修
						建築環境工学Ⅱ	2	必修
④ 建築設備	3	2				居住環境調整工学実験	1	選択
						環境設備学	2	必修
						環境設備システム学	2	必修
						環境設備システム学演習	1	選択
⑤ 構造力学	8	4	ハ 構造力学、建築一般構造又は建築材料	19	6	建築構造の基礎	2	必修
						静定構造力学	2	必修
						静定構造力学演習	1	必修
						不静定構造力学	2	選択
⑥ 建築一般構造	8	3				不静定構造力学演習	1	選択
						建築構法	2	必修
						木質構造学	2	必修
						鉄筋コンクリート構造学	2	選択
⑦ 建築材料	3	2				鉄骨構造学	2	選択
						居住空間材料学	2	必修
						居住空間構造・材料実験	1	選択
						建築施工学	2	必修
⑧ 建築生産	2	2	ニ 建築生産	2	1	建築法規	2	必修
⑨ 建築法規	2	1	ホ 建築法規	2	1	建築法規	2	必修
①～⑨単位数合計	55	30	イ～ホ単位数合計	55	20			
⑩ その他(適宜)	22		ヘ その他(適宜)	22		図学	2	必修
						居住環境デザイン実習Ⅰ	2	必修
						居住環境デザイン実習Ⅱ	2	必修
						居住環境デザイン実習Ⅴ	2	必修
						都市計画	2	必修
						比較都市文化論	2	選択
						インテリアデザイン論	2	選択
						インテリアデザイン実習	2	選択
						環境調整工学	2	選択
						都市居住政策学	2	選択
						環境防災・安全工学	2	選択
						①～⑩単位数合計	75	60

12-3 一級建築施工管理技士・二級建築施工管理技士（居住環境学科）

建築施工管理技術検定制度は、建設業法第27条第1項に基づき国土交通大臣指定機関が実施する国家試験です。技術検定合格者は、所定の手続きによって国土交通大臣から技術検定合格証明書が交付され「一級・二級建築施工管理技士」の称号が与えられます。

この技術検定合格者は建設業法で定められた専任技術者（建設業許可）主任技術者・管理技術者（現場常駐）としての資格が付与されます。

居住環境学科のカリキュラムは、国土交通大臣の認定を受けたため、居住環境学科の卒業者は、検定の受験に必要な実務経験年数について、指定学科として扱われることとなります。

12-4 栄養士免許(食健康科学科)

- ① 下記の栄養士指定必修科目計50単位を修得することにより栄養士免許が取得できます。
- ② 栄養士免許取得後、指定施設における1年間の栄養士実務経験を経ることによって管理栄養士免許受験資格を取得できます。
- ※ 栄養士免許の申請は、卒業後、各人が行います。

栄養士法施行規則 による規定科目	(環境共生学部 授業科目)			
	授 業 科 目 名	単 位 数		
		講義又 は演習	実験又 は実習	計
社会生活と健康	健康管理学 公衆衛生学	2 2		4
人体の構造と機能	解剖生理学 臨床医学概論 疾病論 生化学 解剖生理学実験	2 2 2 2	1	9
食品と衛生	食品学総論 食品学各論 食品衛生学 食品学実験 食品加工学実験 食品衛生学実験	2 2 2	1 1 1	9
栄養と健康	栄養学総論 栄養学各論 栄養運動生理学 臨床栄養治療学 栄養学実験 栄養運動生理学実習 臨床治療食実習	2 2 2 2	1 1 1	11
栄養の指導	栄養教育論 栄養指導論 公衆栄養学 栄養教育論実習 地域栄養アセスメント実習	2 2 2	1 1	8
給食の運営	給食経営管理学 調理学 調理学実習Ⅰ 調理学実習Ⅱ 福祉・介護食実習 給食管理実習 給食経営管理臨地実習	2 2	1 1 1 1 1	9
合 計		36	14	50

- 1) 食健康科学科へ転入学、編入学、転学部あるいは転学科した場合、食健康科学科の該当する学年の定員を超えない範囲であれば、必要な科目を修得した場合、栄養士免許並びに管理栄養士免許受験資格を取得できます。ただし、修得に要する年限は、延長することがあります。
- 2) 食健康科学科から環境資源学科あるいは居住環境学科へ転学科した場合は、上記科目を修得しても栄養士免許並びに管理栄養士免許受験資格は取得できません。

12-5 管理栄養士免許(食健康科学科)

下記の管理栄養士指定必修科目計90単位を修得することにより、管理栄養士免許受験資格を取得できます。

※ 管理栄養士免許の申請は、国家試験合格後、各人が行います。

専門基礎分野

栄養士法施行規則 による規定科目	(環境共生学部 授業科目)			
	授 業 科 目 名	単 位 数		
		講義又 は演習	実験又 は実習	計
社会・環境(人間や生活) と健康	健康管理学 発育発達運動学 公衆衛生学 フィールドワーク	2 2 2	1	7
人体の構造と機能、疾病の 成り立ち	解剖生理学 臨床医学概論 疾病論 生体防御学 環境生理学 生化学 栄養生化学 解剖生理学実験 環境生理学実習 生化学実験	2 2 2 2 2 2 2	1 1 1	17
食べ物と健康	食品学総論 食品学各論 調理学 食品バイオテクノロジー 食品加工学 食品衛生学 食品学実験 調理学実習Ⅰ 調理学実習Ⅱ 食品バイオテクノロジー実験 食品加工学実験 食品衛生学実験	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	18
専門基礎分野計		32	10	42

専門分野

栄養士法施行規則 による規定科目	(環境共生学部 授業科目)			
	授 業 科 目 名	単 位 数		
		講義又 は演習	実験又 は実習	計
基礎栄養学	栄養学総論 栄養学実験	2	1	3
応用栄養学	栄養学各論 栄養運動生理学 栄養機能性学 栄養運動生理学実習	2 2 2	1	7
栄養教育論	栄養教育論 栄養指導論 ライフステージ栄養学演習 栄養教育論実習	2 2 2	1	7
臨床栄養学	臨床栄養アセスメント 臨床代謝栄養学 臨床栄養治療学 臨床外科栄養学 臨床栄養学実習 臨床治療食実習	2 2 2 2	1 1	10
公衆栄養学	公衆栄養学 栄養情報管理学 生活習慣病予防学 地域栄養アセスメント実習	2 2 2	1	7
給食経営管理論	給食経営管理学 福祉・介護食生活支援論 福祉・介護食実習 給食管理実習	2 2	1 1	6
総合演習	実践栄養学総合演習	4		4
臨地実習	給食経営管理臨地実習 公衆栄養学臨地実習 臨床栄養学臨地実習		1 1 2	4
専門分野計		36	12	48
専門基礎分野及び専門分野合計		68	22	90

- 1) 食健康科学科へ転入学、編入学、転学部あるいは転学科した場合、食健康科学科の該当する学年の定員を超えない範囲であれば、必要な科目を修得した場合、栄養士免許並びに管理栄養士免許受験資格を取得できます。ただし、修得に要する年限は、延長することがあります。
- 2) 食健康科学科から環境資源学科あるいは居住環境学科へ転学科した場合は、上記科目を修得しても栄養士免許並びに管理栄養士免許受験資格は取得できません。

12-6 食品衛生監視員及び食品衛生管理者

(1) 取得できる資格について

食品衛生監視員とは、国や地方公共団体において、企業等に対し、食品衛生に関する監視や指導の業務を行う者のことです。また、食品衛生管理者とは、特に衛生上の考慮を必要とする乳製品その他の食品又は添加物の製造や加工について、その製造・加工施設において管理・指導を行う者のことです。本学卒業後、国や地方公共団体の衛生部門、食品関連企業等に就職を希望する者にとっては、これらの資格を取得することが有益です。

これらの資格を取得したい学生は、(2)に記載の授業科目を履修してください。卒業後に資格取得手続きを行う場合には、通常の卒業証明書とは異なり(3)の卒業証明書が必要となりますので、証明書交付願に資格名称を記載のうえ請求してください。

(2) 修得すべき授業科目について

区分	授 業 科 目 名	配当 単位数	必修 単位数
A群 化学関係	有機化学	2	2
B群 生物化学関係	生化学	2	2
	生化学実験	1	1
	食品化学	2	2
	食品分析学	2	2
C群 微生物学関係	食品微生物学	2	2
	食品保存学	2	2
	食品製造学	2	2
D群 公衆衛生学関係	公衆衛生学	2	2
	食品衛生学	2	2
	食品衛生学実験	1	1
	環境衛生学	2	2
E群 その他の関連科目	生命有機化学	2	左記の 31単位 のうち から18 単位以 上を修 得する こと
	食品学総論	2	
	食品学各論	2	
	食品学実験	1	
	植物食資源学	2	
	食資源開発学	2	
	食品バイオテクノロジー	2	
	食品バイオテクノロジー実験	1	
	食品加工学	2	
	食品加工学実験	1	
	食品安全性学	2	
	解剖生理学	2	
	解剖生理学実験	1	
	栄養学総論	2	
	栄養学各論	2	
	栄養学実験	1	
栄養生化学	2		
栄養機能性学	2		
必修単位数合計			40以上

(3) 卒業証明書の書式

				第		号
卒業・学位記証明書						
環境共生学部 食健康科学科 食品衛生コース						
				氏 名	○ ○ ○ ○	
				生年月日	年 月 日	
<p>上記の者は、 年 月 日本学所定の課程を修めて卒業し、学士（環境共生学）の学位を得たことを証明します。</p>						
				熊本県立大学長	○ ○ ○ ○	

IV 履修モデル

IV 履修モデル

1 環境資源学科における履修モデル

環境資源学科における履修モデルを次ページ以降の表に示します。表の見方は以下のとおりです。

- ◆ 黒色の枠の科目：必修科目であり、これらの単位を取得しないと卒業できません。
- ◆ 灰色の枠の科目：選択の専門科目であり、これらの中から卒業に必要な数以上の単位を取得しないといけません。環境資源学科の学生としては、これらの科目をすべて履修するようにしてください。
- ◆ 【 】の科目：共通科目です。各科目群から卒業に必要な数以上の単位を取得するようにしてください。詳しくは「環境共生学部カリキュラムの概要（共通科目群）」の表を参照してください。
- ◆ 斜体にした科目：教員免許の取得に関係する科目です。詳しくは「各種免許の取得」の項を参照してください。

補足説明

- ・ 1年次前学期の月曜2限は、同じ時間帯に2つの科目を登録することになります。その方法については、オリエンテーションの際に説明します。
- ・ 1年次前学期・後学期の木曜3限と4限の「生涯スポーツ実習Ⅰ」と「生涯スポーツ実習Ⅱ」については、どちらか片方あるいは両方の科目を履修しますが、人数の都合上、希望どおりの時間のものを履修できるとは限りません。
- ・ 1年次後学期の木曜6限に「フィールドワーク」を登録しますが、実際には、この科目がこの時間帯に行われる訳ではありません。
- ・ 1年次後学期に、熊本という地域を対象とした「もやいすと（地域）ジュニア育成」と、防災を対象とした「もやいすと（防災）ジュニア育成」が開講されます。どちらかを選んで履修登録してください。また後学期科目ですが前学期中にオリエンテーションを実施します。日程は学内掲示板でお知らせします。
- ・ 共通科目の語学については、初修外国語も含めて様々な科目が用意されていますが、環境資源学科の学生は Basic English I～IV（合わせて6単位必修）を履修し、卒業に必要な残り2単位以上について、Intermediate English I, II（英語）を履修してください。
- ・ 共通科目については、必要な単位数を卒業までに取得すれば良いのですが、環境資源学科の場合、3～4年次にかけては、専門科目や卒業論文で忙しくなります。したがって、1～2年次の早い段階で卒業に必要な単位数を揃えておくようにしてください。

1年前学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)	居住環境を創る	【健康の科学】	[Basic English I a]	【初修外国語 (入門)】	【初修外国語 (入門)】
2限 (10:20~11:50)	【ブレゼミナール】 【キャリア形成論】		現代生活と環境問題	【情報処理入門】	食と環境
3限 (12:50~14:20)	【教養科目】 【地域理解とリーダーシップ】	【教養科目】 【地域理解とリーダーシップ】 【選択英語】	【教養科目】 【選択英語】	【生涯スポーツ実習 I】	地球環境を考える
4限 (14:30~16:00)		[Basic English I a]	生物学実験 (資)	【生涯スポーツ実習 I】	生物学 I
5限 (16:10~17:40)				基礎化学 (資)	数学 I
6限 (18:00~19:30)				物理学 I (資)	
集中	必修	選択			教職

1年後学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)	【もやいすと(防災)ジュニア育成】	[Basic English II a]	[Basic English II a]	【初修外国語 (入門)】	【初修外国語 (入門)】
2限 (10:20~11:50)	物理学 II (資)	生物学 II (資)			情報処理実習 (資)
3限 (12:50~14:20)	【教養科目】 【地域理解とリーダーシップ】 【選択英語】	【教養科目】 【地域理解とリーダーシップ】 【選択英語】	【教養科目】 【地域理解とリーダーシップ】 【選択英語】	【生涯スポーツ実習 II】	
4限 (14:30~16:00)			化学実験 (資)	【生涯スポーツ実習 II】	有機化学 (資)
5限 (16:10~17:40)					数学 II
6限 (18:00~19:30)				フィールドワーク	
集中	必修	選択			教職

2年前学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)	教職論		高分子化学		水産環境学
2限 (10:20~11:50)		環境分析化学		植物食資源学	【初修外国語(発展)】 【選択英語】
3限 (12:50~14:20)	【教養科目】 【地域理解とリーダーシップ】	【教養科目】 【地域理解とリーダーシップ】 【選択英語】	【教養科目】 【選択英語】	統計学	食資源開発学
4限 (14:30~16:00)	森林環境アセスメント実習	【Intermediate English I b】	物理学実験(資)	【Basic English III】	環境情報処理実習
5限 (16:10~17:40)		道徳教育の理論と方法			
6限 (18:00~19:30)	森林生態学	【Intermediate English I a】			
集中	必修	選択		教職	
		海洋微生物学			

2年後学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)	統計学演習	森林資源学			
2限 (10:20~11:50)	教育原理	教育心理学I	プランクトン学	【Intermediate English II a】	教育の方法と技術
3限 (12:50~14:20)	統計学演習	【Basic English IV】		食品学総論	【初修外国語(発展)】 【選択英語】
4限 (14:30~16:00)	特別活動の理論と方法	【教養科目】 【地域理解とリーダーシップ】 【選択英語】	【教養科目】 【地域理解とリーダーシップ】 【選択英語】	環境経済学	海洋生態学
5限 (16:10~17:40)	大気環境学実験	海藻学	植物生産学	高分子化学実験	環境分析化学実験I
6限 (18:00~19:30)		【Intermediate English II b】			
集中	必修	選択		教職	
	沿岸環境アセスメント実習	【もやいすとシニア育成】		教育心理学II	

3年前学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)	教育制度論	理科教育法 I	教育課程論	生徒指導の理論及び方法	
2限 (10:20~11:50)		水環境科学	大気環境学		
3限 (12:50~14:20)		食品分析学	Science English I	環境素材学	植物生産環境アセスメント実習
4限 (14:30~16:00)	沿岸環境保全論		環境分析化学実験 II	魚類環境生理学	
5限 (16:10~17:40)		エネルギー環境学			
6限 (18:00~19:30)					環境関連法規
集中	必修	選択		教職	
	水産環境アセスメント実習	地学 I、地学実験 I			

3年後学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)	教育社会学			教育相談の理論と方法	
2限 (10:20~11:50)		環境共生総合演習	食品安全性学	地域景観計画学	Science English II
3限 (12:50~14:20)					
4限 (14:30~16:00)			応用情報処理実習		
5限 (16:10~17:40)		環境計量演習			
6限 (18:00~19:30)					
集中	必修	選択		教職	
	水産環境アセスメント実習	地学 II、地学実験 II、生物濃縮論		教育社会学、理科教育法 II	

4年前学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)					教育実習指導
2限 (10:20~11:50)					
3限 (12:50~14:20)				理科教育法Ⅲ	
4限 (14:30~16:00)					
5限 (16:10~17:40)					
6限 (18:00~19:30)					
集中	必修 卒業論文	選択		教職 教育実習	

4年後学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)			教職実践演習(中・高)		
2限 (10:20~11:50)					
3限 (12:50~14:20)					
4限 (14:30~16:00)					
5限 (16:10~17:40)					
6限 (18:00~19:30)					
集中	必修 卒業論文	選択		教職 理科教育法Ⅳ、教育実習、教育実習指導	

2 居住環境学科における履修モデル

【建築士受験資格と必修科目の関係】

一級建築士と二級建築士の受験資格の要件となる履修科目の多くは、居住環境学科の必修科目となっています。(受験資格の詳細については、53頁を参照すること。)

<二級建築士>

必修科目を修得すれば、二級建築士の受験資格要件を満たします。

<一級建築士>

必修科目を全て履修すると、受験資格に必要な60単位の内、48単位を修得できます。受験資格は指定科目の分類ごとに必要な最低修得単位数が定められていますが、必修科目を修得すれば、この要件を満たします。従って53頁の表にある選択科目の中から、さらに12単位を修得すれば、卒業後2年間の実務経験を経て一級建築士の受験資格を得ることになります。

【卒業要件と学科専門科目の履修方法】

居住環境学科を卒業するためには、共通科目群から29単位以上、専門科目群の内、学部共通科目を11単位、学科専門科目を96単位以上修得し、合計136単位以上修得する必要があります。(詳細については、34頁を参照すること。)

学科専門科目に必要な96単位の内、58単位は必修科目です。従って、選択科目から38単位以上を修得する必要があります。選択科目を履修することにより、建築に関わる幅広い学問を身につけることができるので、皆さんの興味や思い描くキャリアに応じて自由に選択してください。以下の表に、選択科目の分類と、各分野の学問の概要を示すので、シラバスと共に参考にしてください。

分野（担当教員）	選択科目	学問の概要
農村・都市環境 (柴田・鄭)	比較都市文化論 農山村域計画学 都市居住政策学 地域景観計画学	環境共生の智恵と技に満ちた農山村地域の暮らし・空間の在りようを保全し、現代社会に活かす方途について学びます。建築単体のみならず、街・村という全体空間の成り立ちと、環境としての地域景観の見方、整備のあり方について学びます。
居住空間 (高橋・佐藤)	建築史 インテリアデザイン論 インテリアデザイン実習 比較住文化論	居住空間分野では、住まいや建築を快適に、使いやすく、また美しく設計・計画するための基本的な技術を学びます。必修科目は住まいや建物計画の基礎的な考え方を学び、選択科目では、様々な住まいや建物への応用を学びます。これに並行して、居住環境デザイン実習（設計製図）で実際の住まいや建物を設計し、様々な住まいや建築に関する知識を総合化し、使いやすく美しい建物の設計の仕方を習得します。
環境・設備 (辻原・田中)	環境設備システム学演習 居住環境調整工学実験 環境調整工学	環境・設備分野では熱、空気、光、音環境を、建築の工夫や設備機器により調節するための原理と、システムについて学びます。必修科目では、快適性と環境負荷の削減を両立する方法の基礎を学び、選択科目ではその応用方法を習得することを目指します。近年の重要な課題である環境分野での活躍を視野に入れている学生は、積極的に受講してください。
構造・材料 (北原・李)	不静定構造力学 不静定構造力学演習 鉄筋コンクリート構造学 居住空間構造・材料実験 鉄骨構造学	構造・材料分野では居住空間の構築に関する力学、材料学、各種構法、構造システムについて学びますが、基礎意識は必修科目で修得することが出来ます。さらに構造・材料関係の意識を深めるためには、「不静定構造力学」、「鉄筋コンクリート構造学」、「鉄骨構造学」、「居住空間構造・材料実験」などの選択科目を習得してください。

※授業の詳しい内容はシラバスを参照してください。

以上の表のほかにも、地域計画に関連する選択科目として7科目と、建築分野の共通知識に位置づけられる3科目が開講されています。

居住環境学科における履修モデルを次ページ以降の表に示します。表の見方は以下のとおりです。

- ◆ 黒色の枠の科目：必修科目であり、これらの単位を取得しないと卒業できません。
- ◆ 灰色の枠の科目：選択の専門科目であり、これらの中から卒業に必要な数以上の単位を取得しないといけません。
- ◆ 【 】の科目：共通科目です。各科目群から卒業に必要な数以上の単位を取得するようにしてください。詳しくは「環境共生学部カリキュラムの概要（共通科目群）」の表を参照してください。

補足説明

- ・ 1年次前学期の月曜2限は、同じ時間帯に2つの科目を登録することになります。その方法については、オリエンテーションの際に説明します。
- ・ 1年次前学期・後学期の「生涯スポーツ実習Ⅰ」と「生涯スポーツ実習Ⅱ」については、どちらか片方あるいは両方の科目を履修しますが、人数の都合上、希望どおりの時間のものを履修できるとは限りません。
- ・ 1年次後学期の木曜6限に「フィールドワーク」を登録しますが、実際には、この科目がこの時間帯に行われる訳ではありません。
- ・ 1年次後学期に、熊本という地域を対象とした「もやいすと（地域）ジュニア育成」と、防災を対象とした「もやいすと（防災）ジュニア育成」が開講されます。どちらかを選んで履修登録してください。また後期科目ですが前期中にオリエンテーションを実施します。日程は学内掲示板でお知らせします。
- ・ 共通科目については、必要な単位数を卒業までに取得すれば良いのですが、居住環境学科の場合、3～4年次にかけては、専門科目や卒業論文で忙しくなります。しっかりと計画を立てて卒業に必要な単位数を揃えていくようにしてください。

1年前学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)	居住環境を創る	【健康の科学】		【初修外国語】	【初修外国語】
2限 (10:20~11:50)	【プレゼミナール】 【キャリア形成論】	図学	現代生活と環境問題		食と環境
3限 (12:50~14:20)	【共通科目】	【共通科目】	【共通科目】	【生涯スポーツ実習Ⅰ】	地球環境を考える
4限 (14:30~16:00)	【Basic English I b】	【情報処理入門】		【生涯スポーツ実習Ⅰ】	
5限 (16:10~17:40)	【Basic English I b,c】		居住環境デザイン実習Ⅰ		数学Ⅰ
6限 (18:00~19:30)	【Basic English I c】			物理学Ⅰ(居)	
集中		必修		選択	

1年後学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)	【もやいすと(防災)ジュニア】	【Basic English II b,c】		【初修外国語】	【初修外国語】
2限 (10:20~11:50)	物理学Ⅱ(居)	建築史	情報処理実習	建築講法	【選択英語】
3限 (12:50~14:20)	【共通科目】	【共通科目】	【共通科目】	【生涯スポーツ実習Ⅱ】	
4限 (14:30~16:00)				【生涯スポーツ実習Ⅱ】	
5限 (16:10~17:40)		居住環境デザイン実習Ⅱ	【Basic English II b,c】	建築構造の基礎	数学Ⅱ
6限 (18:00~19:30)				フィールドワーク	
集中		必修		選択	
					【Intensive English】 【もやいすと(地域)ジュニア育成】

2年前学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)		建築環境工学 I	静定構造力学演習		
2限 (10:20~11:50)				木質構造学	【初修外国語】
3限 (12:50~14:20)	【共通科目】	【共通科目】	【共通科目】	住空間計画学	比較都市文化論
4限 (14:30~16:00)	静定構造力学	【Intermediate English I b】		居住環境デザイン実習Ⅲ	【Basic English Ⅲ】
5限 (16:10~17:40)					
6限 (18:00~19:30)	木質材料活用論 森林生態学	【Intermediate English I a】			
集中		必修		選択	

2年後学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)			居住空間材料学	【Intermediate English II a】	建築環境工学Ⅱ
2限 (10:20~11:50)	不静定構造力学		地域計画論	比較住文化論	【初修外国語】 【選択英語】
3限 (12:50~14:20)	【共通科目】	【共通科目】	【共通科目】	不静定構造力学演習	【Basic English Ⅳ】
4限 (14:30~16:00)	CAD 実習 I	インテリアデザイン論	居住環境デザイン実習Ⅳ	環境設備学	建築計画学
5限 (16:10~17:40)					
6限 (18:00~19:30)		【Intermediate English II b】			
集中		必修		選択	【もやいすとシニア育成】

3年前学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)			木質デザイン論	鉄筋コンクリート構造学	
2限 (10:20~11:50)		環境設備システム学	大気環境学		
3限 (12:50~14:20)	都市計画	環境設備システム学演習	農山村域計画学		
4限 (14:30~16:00)	CAD実習Ⅱ	就職支援	居住環境デザイン実習Ⅳ	居住空間構造・材料実験	インテリアデザイン実習
5限 (16:10~17:40)					
6限 (18:00~19:30)					環境関連法規
集中		必修		選択	

3年後学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)		鉄骨構造学			
2限 (10:20~11:50)	都市居住政策学	環境共生総合演習	福祉住環境原論	地域景観計画学	建築施工学
3限 (12:50~14:20)	環境調整工学			環境経済学	居住環境調整工学実験
4限 (14:30~16:00)		就職支援	応用情報処理実習	居住環境デザイン実習Ⅵ	
5限 (16:10~17:40)	地方自治論				
6限 (18:00~19:30)					
集中		必修		選択	

4年前学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)					
2限 (10:20~11:50)					
3限 (12:50~14:20)					
4限 (14:30~16:00)			環境防災・安全工学		
5限 (16:10~17:40)			建築法規 (隔週)		
6限 (18:00~19:30)					
集中	必修 卒業論文			選択	

4年後学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)					
2限 (10:20~11:50)					
3限 (12:50~14:20)		公共政策論			
4限 (14:30~16:00)					
5限 (16:10~17:40)					
6限 (18:00~19:30)					
集中	必修 卒業論文			選択	

3 食健康科学科における履修モデル

食健康科学科における履修モデルを次ページ以降の表に示します。表の見方は以下のとおりです。

- ◆ 黒色の枠の科目：必修科目であり、これらの単位を取得しないと卒業できません。
- ◆ 灰色の枠の科目：選択の専門科目であり、これらの中から卒業に必要な数以上の単位を取得しないといけませんが、食健康科学科の学生としては、これらの科目をすべて履修するようにしてください。
- ◆ 【 】の科目：共通科目です。各科目群から卒業に必要な数以上の単位を取得するようにしてください。詳しくは「環境共生学部カリキュラムの概要（共通科目群）」の表を参照してください。
- ◆ 斜体にした科目：教員免許の取得に関係する科目です。詳しくは「各種免許の取得」の項を参照してください。

補足説明

- ・ 1年次前学期の月曜2限は、同じ時間帯に2つの科目を登録することになります。その方法については、オリエンテーションの際に説明します。
- ・ 1年次前学期・後学期の木曜3限と4限の「生涯スポーツ実習Ⅰ」と「生涯スポーツ実習Ⅱ」については、どちらか片方あるいは両方の科目を履修しますが、人数の都合上、希望どおりの時間のものを履修できるとは限りません。
- ・ 1年次後学期の木曜6限に「フィールドワーク」を登録しますが、実際には、この科目がこの時間帯に行われる訳ではありません。
- ・ 1年次後学期に、熊本という地域を対象とした「もやいすと（地域）ジュニア育成」と、防災を対象とした「もやいすと（防災）ジュニア育成」が開講されます。どちらかを選んで履修登録してください。また後学期科目ですが前学期中にオリエンテーションを実施します。日程は学内掲示板でお知らせします。
- ・ 共通科目の語学については、初修外国語も含めて様々な科目が用意されていますが、食健康科学科の学生は Basic English I～IV（合わせて6単位必修）を履修し、卒業に必要な残り2単位以上について、Intermediate English I, II（英語）を履修してください。
- ・ 共通科目については、必要な単位数を卒業までに取得すれば良いですが、食健康科学科の場合、3～4年次にかけては、専門科目や卒業論文で忙しくなります。したがって、1～2年次の早い段階で卒業に必要な単位数を揃えておくようにしてください。

1年前学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)	居住環境を創る	【健康の科学】	[Basic English I d.e]	【初修外国語 (入門)】	
2限 (10:20~11:50)	【ブレゼミナール】 【キャリア形成論】	[Basic English I d.e]	現代生活と環境問題	【情報処理入門】	食と環境
3限 (12:50~14:20)	【教養科目】 【地域理解とリーダーシップ】	【教養科目】 【地域理解とリーダーシップ】 【選択英語】	【教養科目】 【選択英語】	【生涯スポーツ実習 I】	地球環境を考える
4限 (14:30~16:00)	基礎化学 (食)	被服学概論	化学実験 (食)	【生涯スポーツ実習 I】	解剖/生理学
5限 (16:10~17:40)	生活経営学概論 (家庭経営学を含む)	生物学 I (食)		有機化学 (食)	調理学
6限 (18:00~19:30)				物理学 I	
集中	必修	選択		教職	

1年後学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)	【もやいすと(防災)ジュニア育成】			【初修外国語 (入門)】	栄養教育論
2限 (10:20~11:50)	物理学 II	生物学実験 (食)	情報処理実習	食品学総論	生命有機化学
3限 (12:50~14:20)	【教養科目】 【地域理解とリーダーシップ】 【選択英語】	【教養科目】 【地域理解とリーダーシップ】 【選択英語】	【教養科目】 【地域理解とリーダーシップ】 【選択英語】	【生涯スポーツ実習 II】	家庭機械・電気 (2016年以降入学)
4限 (14:30~16:00)	生化学	育児学 (実習及び家庭看護を含む)	調理学実習 I	【生涯スポーツ実習 II】	
5限 (16:10~17:40)	[Basic English II d.e]				[Basic English II d.e]
6限 (18:00~19:30)				フィールドワーク	生物学 II (食)
集中	必修	選択		教職	

2年前学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)	教職論	生体防御学	栄養生化学		
2限 (10:20~11:50)	<i>[Intermediate English Ic]</i>	栄養学総論	食品化学	家族関係論 植物食資源学	食文化論
3限 (12:50~14:20)	【教養科目】 【地域理解とリーダーシップ】	【教養科目】 【地域理解とリーダーシップ】 【選択英語】	【教養科目】 【選択英語】		食資源開発学
4限 (14:30~16:00)	調理学実習Ⅱ	<i>[Intermediate English Id]</i>	被服構成学実習 物理学実験	栄養教育論実習	環境生理学
5限 (16:10~17:40)		道徳教育の理論と方法	被服構成学実習 物理学実験		[Basic English Ⅲ]
6限 (18:00~19:30)				栄養学実験	
集中	必修	選択			教職

2年後学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)	教育原理	教育心理学Ⅰ		臨床栄養アセスメント	教育の方法と技術
2限 (10:20~11:50)	臨床医学概論	栄養学各論	食品学各論	栄養指導論	【選択英語】
3限 (12:50~14:20)	【教養科目】【選択英語】 【地域理解とリーダーシップ】 特別活動の理論と方法	栄養学各論	給食経営管理学	食品学実験	食品加工学
4限 (14:30~16:00)	環境衛生学	被服構成学実習	植物生産学		[Basic English IV]
5限 (16:10~17:40)	食品衛生学		発育発達運動学	解剖生理学実験	
6限 (18:00~19:30)	<i>[Intermediate English Iic]</i>		<i>[Intermediate English IId]</i>		
集中	必修	選択			教職 教育心理学Ⅱ

3年前学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)	教育制度論	理科教育法Ⅰ	教育課程論	生徒指導の理論及び方法	家庭科教育法Ⅰ
2限 (10:20~11:50)	栄養機能性学	福祉・介護食生活支援論		疾病論	栄養運動生理学
3限 (12:50~14:20)	食品微生物学	食品分析学	栄養情報管理学	食品衛生学実験	臨床栄養治療学
4限 (14:30~16:00)	食品加工学実験	(就職支援)	給食管理実習		
5限 (16:10~17:40)		健康管理学		臨床栄養学実習	臨床治療食実習
6限 (18:00~19:30)		学校栄養教育論			
集中	必修	選択		教職	
				教育社会学、地学Ⅰ、地学実験Ⅰ	

3年後学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)	教育社会学	家庭科教育法Ⅱ		教育相談の理論と方法	
2限 (10:20~11:50)		環境共生総合演習	食品安全性学	生活習慣病予防学	ライフステージ栄養学演習
3限 (12:50~14:20)	臨床代謝栄養学	公衆衛生学	食品バイオテクノロジー	食品バイオテクノロジー実験	栄養運動生理学実習
4限 (14:30~16:00)	福祉・介護食実習	(就職支援)	公衆栄養学		
5限 (16:10~17:40)		食教育実践論	学生実験準備		
6限 (18:00~19:30)			教育相談の理論と方法(栄養)		
集中	必修	選択		教職	
		食品保存学、給食経営管理臨床実習、臨床栄養学臨床実習		理科教育法Ⅱ、地学Ⅱ、地学実験Ⅱ	

4年前学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)			地域栄養アセスメント実習	実践栄養学総合演習	教育実習指導
2限 (10:20~11:50)					
3限 (12:50~14:20)			家庭科教育法Ⅲ	理科教育法Ⅲ (隔週)	
4限 (14:30~16:00)		(就職支援4月中)	臨床外科栄養学		
5限 (16:10~17:40)					
6限 (18:00~19:30)			栄養教育実習指導		
集中	必修 卒業論文	選択 公衆栄養学臨地実習		教職	

4年後学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)		管理栄養士特別演習 (2017年以降入学)2020年度開講	教職実践演習(中・高)		
2限 (10:20~11:50)					
3限 (12:50~14:20)					家庭機械・電気 (2013~2015年入学)
4限 (14:30~16:00)					
5限 (16:10~17:40)					
6限 (18:00~19:30)		教職実践演習(栄養)			
集中	必修 卒業論文	選択		教職	

理科教育法Ⅳ、家庭科教育法Ⅳ、教育実習、
栄養教育実習(栄養教諭)、教育実習指導、栄養教育実習指導

大学関係の規程等について

- 1 熊本県立大学学則
- 2 熊本県立大学における教育研究上の目的に関する規程
- 3 熊本県立大学学位規程
- 4 熊本県立大学履修規程
- 5 熊本県立大学試験に関する規程
- 6 熊本県立大学成績優秀者表彰規程
- 7 定期試験の受験心得

※ 上記の学則・規程等は、熊本県立大学のホームページに掲載してありますので、必要に応じて読むようにしてください。

熊本県立大学ホームページトップの左下のアイコン「規程集」に掲載しています。

